

入善浄化センター建築改修工事

発注図

令和7年度

富山県入善町

目 面 目 錄

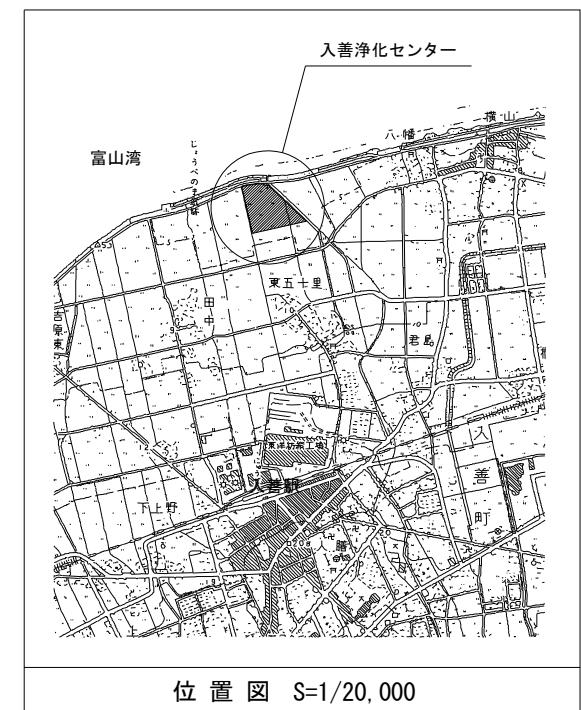
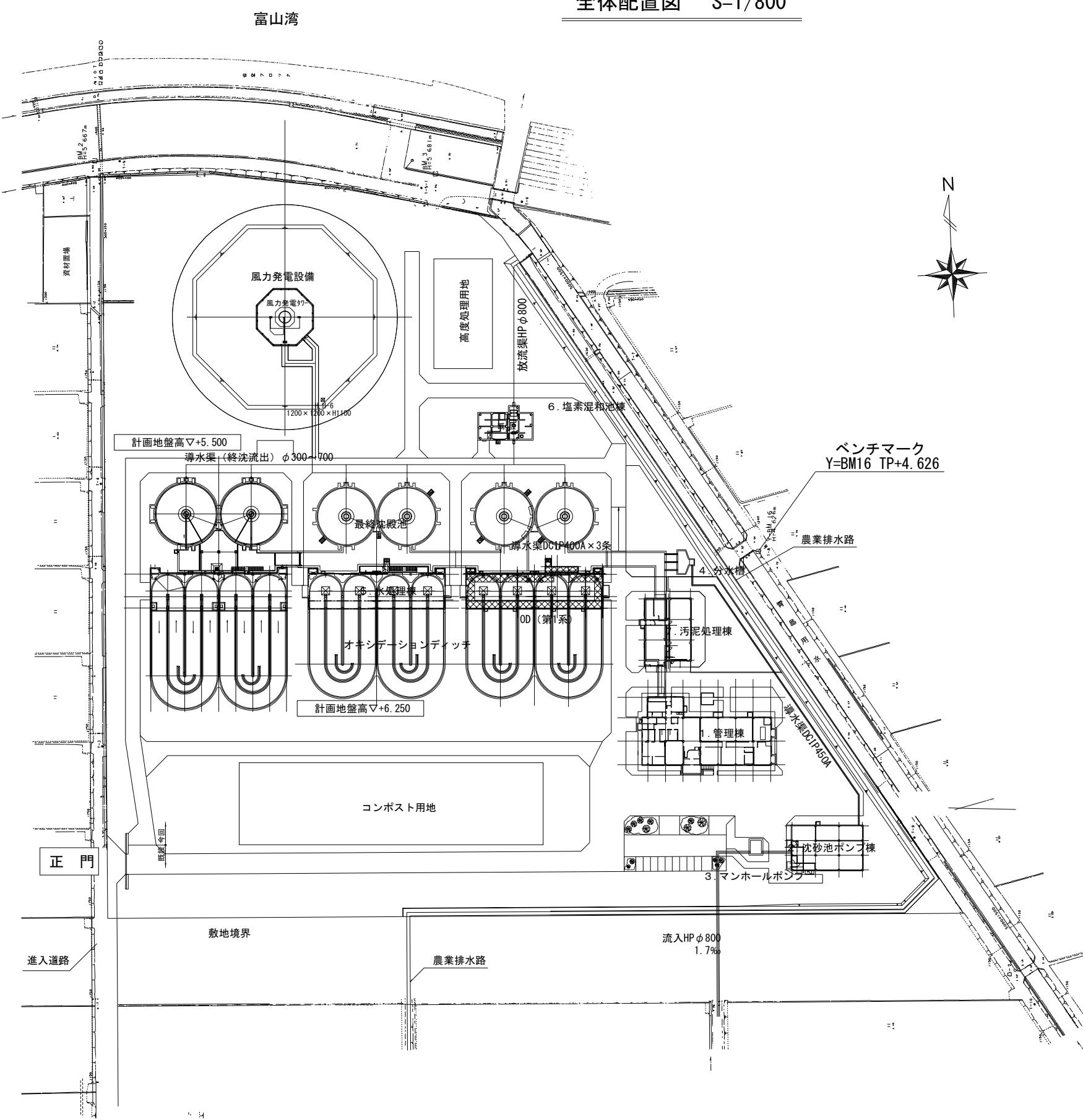


位置図 S=1/10,000



令和7年度 入善町公共下水道事業		
工事名	入善浄化センター建築改修工事	
工事箇所	入善町東五十里地内	
図 称	位置図	縮 尺 1/10,000
設計年月日	令和 年 月 日	番 号 A-1
課 長	係 長	合 謂
審 査		設計者
入善町役場		

全体配置図 S=1/800



位置図 S=1/20,000

令和7年度 入善町公共下水道事業			
工事名	入善浄化センター建築改修工事		
工事箇所	入善町東五十里地内		
図 称	全体配置図	縮 尺	1/800
設計年月日	令和 年 月 日	番 号	A-2
課 長	係 長	合 議	審査 設計者
入善町役場			

特記仕様書			特記事項			特記事項			
1. 本特記仕様書は、本工事における建築関連工事に適用する。			2. 本特記仕様書における採用事項			3.2 材料		特記事項	
①. 項目欄は番号等に○印を附したものを適用する。			1.3 騒音・粉じん等の対策	騒音・粉じん等の対策：・防音パネル・防音シート 防音パネル等の設置範囲：・図示・ 内部足場の種別：○脚立・足場板・ローリングタワー・枠組足場 外部足場の設置、種別：・設置しない・設置する【○枠組足場・単管足場】 保護シートの設置：○設置する・設置しない 材料等の運搬方法：・A種・B種・C種・D種・E種 既存部分養生材料：○ニードルト・その他：施工者にて適材適所を選択する 既存家具養生材料：○ニードルト・その他：施工者にて適材適所を選択する 既存ブランド、カーテンの養生方法： ・指定場所に保管し再設置・指定場所に保管し清掃の上再設置・ 仮設間仕切り：・無し・○有り 設置箇所：○図示・ 種別：・A種・B種・C種 仮設扉：・不要・○必要【設置箇所：○図示・任意の場所】 仮設扉の種別：・鋼製・○木製・図示・ 監督職員事務所の設置：・必要・○不要 ◎監督員事務所の規模、設備、備品等 ・()号(会議室()m ² を含む) ・()号(会議室()m ² を加えた規模 ・専用電話・兼用FAX・冷暖房機・机・椅子・書棚・検査用具・その他： 受注者事務所の設置：・必要・不要 ◎受注者事務所の規模、設備、備品等 ・()号(会議室()m ² を含む) ・()号(会議室()m ² を加えた規模 ・専用電話・兼用FAX・冷暖房機・机・椅子・書棚・検査用具・その他： 施工順序等の制約：○無し・有り【・現場説明書による・図示】 工事車両の駐車場所：・図示・○現場説明書による・ 構内既存の用水施設：○利用できない・利用できる(・有償・無償) 構内既存の電力施設：○利用できない・利用できる(・有償・無償) ・動力以外利用できる(・有償・無償)	絶縁シートの材料の指定：※標準仕様書による・製造所仕様による 保護コンクリートの設計基準強度：・※18N/mm ² ・21N/mm ² ・ 保護コンクリートのスランプ：・※18cm・15cm・ 防水層上り部の保護の種類：・乾式保護【・押出成形セメント板・図示】 ・湿式保護【・モルタル・普通れんが(JIS R 1250)・図示】 ◎屋根保護防水 防水立上りの保護コンクリートの適用：・適用しない・適用する 防水立上りの保護コンクリートの工法：・図示・ 施工部位	工法/種別	備考		
4. その他事項			②足場等	・PHR階屋上 ・R階屋上 ・TIBI ・P2AI ・P2A	・P1B/・B-1・B-2 ・P1BI/・BI-1・BI-2 ・TIBI/・BI-1・BI-2・BI-3 ・P2AI/・AI-1・AI-2・AI-3 ・P2A/・A-1・A-2・A-3	断熱材:t=			
・各項目欄の番号(例：1.4 ○○○)は標準仕様書の番号(章番号を除く)に照合する			③既存部分の養生			◎屋根露出防水			
・各項目欄の番号(例：表〇.〇.〇、及び図〇.〇.〇)は標準仕様書の各表、及び図番号に該当する項目とする			④仮設間仕切り			施工部位	工法/種別	備考	
・各項目欄の番号(例：●公〇章***、公***、●公***))は公共建築工事標準仕様書の各項目に相当する			⑤監督職員事務所等			・PHR階屋上 ・R階屋上 ・POD	・M4C/・C-1・C-2・C-3・C-4 ・M3D/・D-1・D-2 ・D-1・D-2	仕上塗料：	
・各項目欄の番号(例：1.* ○○○)は標準仕様書の番号(章番号を除く)に該当しない項目とする			⑥工事用水及び電力						
1. 章 各章共通事項	項目	特記事項	3.3 種別及び工法			◇M3D工法及びPOD工法の脱気装置 脱気装置の種類：※製造所仕様による・図示・ 脱気装置の設置数量：※製造所仕様による・図示・ ◎屋根露出防水絶縁断熱工法			
1.4 工事実績情報登録	(CORINS)への登録：・行う・行わない		施工部位	工法/種別	備考	施工部位	工法/種別	備考	
①建築基準法の届出 ②積雪に関する規定	基準風速：・V _o =3.4(m/s) 平成12年建告第1454号第2		・PHR階屋上 ・R階屋上 ・M3D/・DI-1・DI-2 ・M4D/・DI-1・DI-2	・M4C/・C-1・C-2・C-3・C-4 ・M3D/・D-1・D-2 ・D-1・D-2	仕上塗料：	・PHR階屋上 ・R階屋上 ・M3D/・DI-1・DI-2 ・M4D/・DI-1・DI-2	仕上塗料：	仕上塗料：	
③工事の記録等	積雪区分：・区域=(32)/α=0.0009/β=0.00/γ=0.21/R=0 平成12年建告第1445号 別表					脱気装置の種類：※製造所仕様による・図示・ 脱気装置の設置数量：※製造所仕様による・図示・ ◎屋根露出防水			
④電気保安技術者	工事報告書の書式等：・協議により決定・指定の書式・任意の書式・ 技術者の配置：・配置する(・常駐・非常駐)・○配置しない					施工部位	工法/種別	備考	
⑤施工条件	施工順序等の制約：○無し・有り【・現場説明書による・図示】 工事車両の駐車場所：・図示・○現場説明書による・ 資材、機材置場：・図示・○現場説明書による・ 発生土仮置場：・図示・現場説明書による・ その他の施工条件：・図示・○現場説明書による・ 発注者への引渡し発生材：※金属類及びPCB含有物・図示					・浴室	・P1E/・E-1・E-2	保護層：普通コンクリート	
⑥発生材の処理等	特別管理産業廃棄物の有無：・無し・○有り【分類：○図示(アスベスト含有建材：下地調整材)】 発生材のリサイクル：○図示・ ひ素・カドミウム含有せっこうボードの処理： ・製造業者処分委託・管理型最終処分場埋立分 石綿・ひ素・カドミウム非含有せっこうボードの処理： ・管理型最終処分場埋立処理・再資源化施設での再資源化 PCB含有シーリングの調査方法：・図示・ PCB含有シーリングの撤去方法：・図示・ 特別管理産業廃棄物の分析調査：○行わない・行う ○仮設材以外の全ての建築材料(仕上材、下地材、副資材)のホルムアルデヒド放散量はJIS等の材料規格において放散量が規定されている場合は原則としてF☆☆☆☆とする。但し使用予定材料にF☆☆☆☆が存在しない場合は監督員と協議のうえ決定する。 調査範囲：○図示・ 既存設計図書の貸与：○貸与する・貸与しない 石綿含有建材の調査報告書の貸与：○貸与する・貸与しない 石綿含有建材の分析調査：・行う【・定性分析・定量分析】・○行わない		1. 共通事項			・機械室	・P2E/・E-1・E-2	保護層：軽量コンクリート 保護層：モルタル=t=30	
⑦使用材料	調査範囲：・図示・ 既存設計図書の貸与：○貸与する・貸与しない 石綿含有建材の調査報告書の貸与：○貸与する・貸与しない 石綿含有建材の分析調査：・行う【・定性分析・定量分析】・○行わない		1.1 一般事項	防水工事の保証書の提出及び保証年限 ・保証年限10年：アスファルト防水・合成高分子ルーフィング防水 ・保証年限5年：塗膜防水・その他： <保証書(請負人、材料製造所、防水施工者の連帯保証)は各2通提出する。防水 施工者は、防水材料製造所の施工者とし、監督員の承諾を受ける> 降雨等による養生方法：※標準仕様書による・図示・ ◎防水改修工法の種類			ルーフドレン廻りの断熱材の張仕舞い位置：・製造メーカ推奨による・図示・ 保護層のコンクリートの厚さ：・100mm※80mm※60mm・図示・ 床面コンクリートの平坦さ：表8.1.5【・a種・b種・c種】 防水立上がり部の保護：・露出・コンクリート・レンガ押え・乾式保護材： 屋上排水溝：・設置する・設置しない		
⑧事前調査	調査範囲：・図示・ 既存設計図書の貸与：○貸与する・貸与しない 石綿含有建材の調査報告書の貸与：○貸与する・貸与しない 石綿含有建材の分析調査：・行う【・定性分析・定量分析】・○行わない		1.3 施工一般			4. 改良アスファルトシート防水 改良アスファルトシートの種別・厚さ：※表3.4.1~3.4.3による・製造所仕様による 粘着層付改良アスファルトシートの種別・厚さ：※表3.4.1~3.4.3による・製造所仕様による 露出防水断熱工法の断熱材の材質：・図示・製造所仕様による 露出防水断熱工法の断熱材の厚さ：・図示・50mm・35mm・			
6.2 施工数量調査	調査範囲：・図示・ 調査方法：・非破壊検査・破壊検査・ 補修方法：・破壊検査後の復旧に関しては監督員と協議の上決定する ・図示・ 見本施工の実施：○実施しない・実施する【実施箇所等：・図示】		1.4 改修工法の種類及び工法	施工部位	工法の種類	4.2 材料			
6.3 調査のための 破壊部分の補修	濃度測定：・未実施・実施 化学物質濃度を下記のとおり測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し報告すること。 測定対象物質：・ホルムアルデヒド・トルエン・キレン・エチルベンゼン・ステレン・図示 測定方法：・簡易法・バッジ型採取機器・測定バッジ・ 測定対象室：・図示・ 測定箇所数：・図示・箇所 ・厚生労働省の標準的測定方法による場合の測定者は、環境計量証明事業所として登録を行っている者、又は作業環境測定事業所の有機溶剤の登録を行っている者とする。		2. 既存防水層等の撤去及び既存下地の処理	施工部位	形状・長さ・数量等	4.3 種別及び工法			
7.5 施工の検査等	中間技術検査の実施：・実施しない・実施する【実施箇所等：・図示】		2.6 削除下地の処理	施工部位	形状・長さ・数量等	施工部位	工法/種別	備考	
7.9 化学物質の濃度測定	完成図：○必要・不要 保全に関する資料：○必要・不要 提出部数：※各2部・部 種類：※表1.9.1・一般図・実施設計竣工図一式・施工承認図・ 記入内容：※表1.9.1・図示・ 提出要領：○データ形式【・CAD・PDF・監督員との協議による】 ・A3原稿2つ折り製本・○監督員との協議による		3.2 材料	3. アスファルト防水 改質アスファルトルーフィングシートの種別・厚さ： ※表3.3.3~3.3.9による・製造所仕様による 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングの種別・厚さ： ※表3.3.3~3.3.9による・製造所仕様による 防水押え金物：・製造所推奨の金物※AI製L-30x15x2.0程度 保護防水断熱工法の断熱材の材質：・図示・製造所仕様による 保護防水断熱工法の断熱材の厚さ：・図示・50mm・35mm・ 露出防水断熱工法の断熱材の材質：・図示・製造所仕様による 露出防水断熱工法の断熱材の厚さ：・図示・50mm・35mm・			5. 保護層等の施工		
8.2 技術検査						5. 保護層等の施工			
9.1 完成時の提出図書						6. 施工			
9.2 完成図						7.5 保護層等の施工			
						8. 施工			
						9. 施工			
						10. 施工			
						11. 施工			
						12. 施工			
						13. 施工			
						14. 施工			
						15. 施工			
						16. 施工			
						17. 施工			
						18. 施工			
						19. 施工			
						20. 施工			
						21. 施工			
						22. 施工			
						23. 施工			
						24. 施工			
						25. 施工			
						26. 施工			
						27. 施工			
						28. 施工			
						29. 施工			
						30. 施工			
						31. 施工			
						32. 施工			
						33. 施工			
						34. 施工			
						35. 施工			
						36. 施工			
						37. 施工			
						38. 施工			
						39. 施工			
						40. 施工			
						41. 施工			
						42. 施工			
						43. 施工			
						44. 施工			
						45. 施工			
						46. 施工			
						47. 施工			
						48. 施工			
						49. 施工			
						50. 施工			
						51. 施工			
						52. 施工			
						53. 施工			
						54. 施工			
						55. 施工			

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項
3 章 防 水 改 修 工 事	5.2 材 料	5. 合成高分子系ルーフィングシート防水 ルーフィングシートの種類・厚さ：※表3.5.1～3.5.3による 絶縁用シート：※発泡ポリエチレンシート・図示 固定金具の材質：・ステンレス・亜鉛めっき鋼板・図示・製造所仕様による 機械固定工法の断熱材の材質：・図示・製造所仕様による 機械固定工法の断熱材の厚さ：・50mm・35mm・ 接着工法の断熱材の材質：・図示・製造所仕様による 接着工法の断熱材の厚さ：・50mm・35mm・ 5.3 種別及び工程	3 章 防 水 改 修 工 事	8.2 材 料	とい受け金物及び足金物の材質：※表3.8.2・図示 軒樋の取付間隔：※表3.8.2・0.9m・1.2m 堅縫の取付間隔：※表3.8.2・1.2m・1.5m・図示 ルーフドレイン：・ステンレス製・鋳鉄製・アルミニウム製 既存といいの撤去及び降雨時の養生：・仮設のといいを設置する・図示 鋼管製といいの防露巻き：・行う・行わない 施工箇所：※表3.8.4による・図示 ルーフドレンの取替え：・行わない・行う【3.8.3(8)による】	4 章 外 壁 改 修 工 事	3.6 樹脂注入工法	◎自動式低圧エボキシ樹脂注入工法 注入間隔：※200～300mm・300～400mm・ 注入量：・約cc/m ◎手動式エボキシ樹脂注入工法 注入間隔：・200～300mm・300～400mm・ ◎機械式エボキシ樹脂注入工法 注入間隔：・200～300mm・300～400mm・ コア抜取り検査：・行わない・行う【個数：※1個／500m】 コア抜き取り部の補修方法：・エボキシ樹脂モルタル充填・ポリマーセメントモルタル充填・ ◎充填 充填材：・シリカゲル用材充填・シリカゲル材の上にポリマーセメント充填 ・可とう性エボキシ樹脂充填・ 塗り厚が25mmを超える場合：・図示・ ◎アンカーピンニング工法
	8.3 工 法	9. アルミニウム製笠木 施工部位 施工部 位 工法／種別 備考 ・PHR階屋上 ・POS・SOSI・S4S・SASI/・S-F2・SI-F2 ・R階屋上 ・S3S・S3SI/・S-F1・SI-F1 ・M4S・M4SI/・S-M1・SI-M1 ・S-M2・SI-M2 ・P1S/・S-C1	9.2 材 料	施工部位 施工部 位 工法／種別 備考 2Fハーフタット RFハーフタット 施工箇所 笠木本体の表面処理 新規笠木の下地及び撤去後の補修 板材折曲げ型笠木の取付方法	9.3 工 法	施工部位 施工部 位 工法／種別 備考 2Fハーフタット RFハーフタット 施工箇所 笠木本体の表面処理 新規笠木の下地及び撤去後の補修 板材折曲げ型笠木の取付方法	3.7 Uカットシール材充填工法	充填材：・シリカゲル用材充填・シリカゲル材の上にポリマーセメントモルタル充填 塗り厚が25mmを超える場合：・図示・ ◎アンカーピンニング工法
	4 章 外 壁 改 修 工 事	1.4 改修工法の種類 ①コンクリート打放し仕上げ外壁 ひび割れ部改修工法の種類：・樹脂注入工法・Uカットシール材充填工法・シール工法 欠損部改修工法の種類：※充填工法・ ②モルタル塗り仕上げ外壁 ひび割れ部改修工法の種類：・樹脂注入工法・Uカットシール材充填工法・シール工法 欠損部改修工法の種類：・充填工法・モルタル塗替え工法 浮き部改修工法の種類： ・アンカーピンニング部分エボキシ樹脂注入工法・アンカーピンニング全面エボキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エボキシセメントストラーリー樹脂注入工法・注入口付アンカーピンニング部分エボキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニング全面エボキシセメントストラーリー樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニングモルタル塗り替え工法 ③タイル張り仕上げ外壁 欠損部改修工法の種類：・タイル部分張替え工法・タイル貼り替え工法 浮き部改修工法の種類： ・アンカーピンニング部分エボキシ樹脂注入工法・アンカーピンニング全面エボキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エボキシセメントストラーリー樹脂注入工法・注入口付アンカーピンニング部分エボキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニングモルタル塗り替え工法 目地改修工法の種類： ・目地ひび割れ部改修工法・伸縮目地改修工法 ④塗り仕上げ外壁 新規仕上げの種類： ・薄付け仕上塗材塗り・厚付け仕上塗材塗り・複層仕上塗材塗り ・可とう形改修用仕上塗材塗り・各種塗料塗り・マスチック塗材塗り	3.8.10 モルタル塗替え工法	1. 共通事項 ①コンクリート打放し仕上げ外壁 ひび割れ部改修工法の種類：・樹脂注入工法・Uカットシール材充填工法・シール工法 欠損部改修工法の種類：※充填工法・ ②モルタル塗り仕上げ外壁 ひび割れ部改修工法の種類：・樹脂注入工法・Uカットシール材充填工法・シール工法 欠損部改修工法の種類：・充填工法・モルタル塗替え工法 浮き部改修工法の種類： ・アンカーピンニング部分エボキシ樹脂注入工法・アンカーピンニング全面エボキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エボキシセメントストラーリー樹脂注入工法・注入口付アンカーピンニング部分エボキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニングモルタル塗り替え工法 ③タイル張り仕上げ外壁 欠損部改修工法の種類：・タイル部分張替え工法・タイル貼り替え工法 浮き部改修工法の種類： ・アンカーピンニング部分エボキシ樹脂注入工法・アンカーピンニング全面エボキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エボキシセメントストラーリー樹脂注入工法・注入口付アンカーピンニング部分エボキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニングモルタル塗り替え工法 目地改修工法の種類： ・目地ひび割れ部改修工法・伸縮目地改修工法 ④塗り仕上げ外壁 新規仕上げの種類： ・薄付け仕上塗材塗り・厚付け仕上塗材塗り・複層仕上塗材塗り ・可とう形改修用仕上塗材塗り・各種塗料塗り・マスチック塗材塗り	3.11～3.16 アンカーピンニング工法	アカーピンニング工法 工法名称 一般部分 指定部分 一般部分 指定部分 16 25 16 25 ※25 13 20 12 20 ※25 13 20 12 20 ※50 ※9 ※16 9 16 ※25 ※9 ※16 ※9 ※16 ※25 9 16 9 16 ※50		
	5.4 施 工	脱気装置：・設置 断熱材の種類：・押出法ポリスチレンフォーム3種B(スキン付)・図示・ 断熱工法の断熱材の厚さ：・25mm・35mm・50mm・ 目地処理(防水種別S-C1の場合)： PCコングリート下地の場合：・図示・ ALC等補下地の場合：・図示・ 入隅部の増張り(防水種別S-C1の場合)： PCコングリート下地の場合：・図示・ ALC等補下地の場合：・図示・ 機械的固定工法の場合の風圧に対応した工法：・製造所仕様による・ 保護層の施工(防水種別S-C1の場合)： 平場のモルタル床塗り厚さ：・30mm・ 平場のコンクリートの厚さ：・60mm・80mm・ 立上りのモルタル塗りの厚さ：・7mm以下・ 6. 塗膜防水 施工部位 施工部 位 工法／種別 備考 ・PHR階屋上 ・L4X/・X-1・X-2・X-1H・X-2H ・R階屋上 ・L4X/・X-1・X-2・X-1H・X-2H ・P1Y/Y-2・P2Y/Y-2 仕上塗装の種類：・製造所仕様による・遮熱塗料・ 仕上塗装の使用量： ◎脱気装置 種類：※製造所指定・ 設置数量：※製造所指定・ 保護層：・設置する・設置しない 7. シーリング 種類及び施工箇所： ・種類は表3.7.1により施工箇所は下表による ノンブリードタイプシーリング材の適用： ・使用する・使用しない 施工箇所： ・ポリウレタンシーリングで仕上げありの部位・ 施工部位 各階打継部分 ・軒下伸縮目地 ・カバ止め付け ・サンゴ 施工部 位 シーリング材の種類 目地寸法(mm) 15(W)×10(D) 15(W)×10(D) 5(W)×5(D) 20(W)×10(D) 保証年限 3年 年 年 年 年	4 章 外 壁 改 修 工 事	1.5 改修後の塗仕上げの種類 2.4 材 料	1. 共通事項 ①コンクリート打放し仕上げ外壁 ひび割れ部改修工法の種類：・樹脂注入工法・Uカットシール材充填工法・シール工法 欠損部改修工法の種類：※充填工法・ ②モルタル塗り仕上げ外壁 ひび割れ部改修工法の種類：・樹脂注入工法・Uカットシール材充填工法・シール工法 欠損部改修工法の種類：・充填工法・モルタル塗替え工法 浮き部改修工法の種類： ・アンカーピンニング部分エボキシ樹脂注入工法・アンカーピンニング全面エボキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エボキシセメントストラーリー樹脂注入工法・注入口付アンカーピンニング部分エボキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニングモルタル塗り替え工法 ③タイル張り仕上げ外壁 欠損部改修工法の種類：・タイル部分張替え工法・タイル貼り替え工法 浮き部改修工法の種類： ・アンカーピンニング部分エボキシ樹脂注入工法・アンカーピンニング全面エボキシ樹脂注入工法 ・アンカーピンニング全面エボキシセメントストラーリー樹脂注入工法・注入口付アンカーピンニング部分エボキシ樹脂注入工法 ・注入口付アンカーピンニングモルタル塗り替え工法 目地改修工法の種類： ・目地ひび割れ部改修工法・伸縮目地改修工法 ④塗り仕上げ外壁 新規仕上げの種類： ・薄付け仕上塗材塗り・厚付け仕上塗材塗り・複層仕上塗材塗り ・可とう形改修用仕上塗材塗り・各種塗料塗り・マスチック塗材塗り	4.6 樹脂注入工法	タイル張付けモルタル：・現場調合モルタル・既調合モルタル・ シリカゲル材：※標準仕様書に準ずる・ 注入工法の種類：・自動式低圧エボキシ樹脂注入工法・手動式エボキシ樹脂注入工法 注入工法の種類：※自動式低圧エボキシ樹脂注入工法・手動式エボキシ樹脂注入工法 ・機械式エボキシ樹脂注入工法・ ◎自動式低圧エボキシ樹脂注入工法 注入間隔：※200～300mm・300～400mm・ 注入量：・約cc/m ◎手動式エボキシ樹脂注入工法 注入間隔：・200～300mm・300～400mm・ ◎機械式エボキシ樹脂注入工法 注入間隔：・200～300mm・300～400mm・ コア抜取り検査：・行わない・行う【個数：※1個／500m】 部分張替え面積の程度：※0.25m ² 程度以下・0.30m ² 程度以下 伸縮調整目地の位置：※表4.4.2による・図示・ 誘導目地の位置：※表4.4.2による・図示・ タイルの見本焼き：・行わない・行う タイルの試験張り：・行わない・行う ◎セメントモルタルによるタイル張り 下地モルタル塗りコンクリート素地面処理：・素肌・目荒し工法 タイル下地モルタルの接着力試験：・行う・行わない	
	6.3 種別及び工程	6. 塗膜防水 施工部位 施工部 位 工法／種別 備考 ・PHR階屋上 ・L4X/・X-1・X-2・X-1H・X-2H ・R階屋上 ・L4X/・X-1・X-2・X-1H・X-2H ・P1Y/Y-2・P2Y/Y-2 仕上塗装の種類：・製造所仕様による・遮熱塗料・ 仕上塗装の使用量： ◎脱気装置 種類：※製造所指定・ 設置数量：※製造所指定・ 保護層：・設置する・設置しない 7. シーリング 種類及び施工箇所： ・種類は表3.7.1により施工箇所は下表による ノンブリードタイプシーリング材の適用： ・使用する・使用しない 施工箇所： ・ポリウレタンシーリングで仕上げありの部位・ 施工部位 各階打継部分 ・軒下伸縮目地 ・カバ止め付け ・サンゴ 施工部 位 シーリング材の種類 目地寸法(mm) 15(W)×10(D) 15(W)×10(D) 5(W)×5(D) 20(W)×10(D) 保証年限 3年 年 年 年 年	2.4 材 料	2. コンクリート打放し仕上げ外壁の改修 樹脂注入工法のエボキシ樹脂：・低粘度形・中粘度形 Uカットシール材充填工法用材料： ・シリカゲル材【※1成分形ボリケン系・※2成分形ボリケン系】 ・可とう性エボキシ樹脂・ボリマーセメントモルタル シール工法用材料： ・パテ状エボキシ樹脂・可とう性エボキシ樹脂 充填工法用材料： ・エボキシ樹脂モルタル・ボリマーセメントモルタル 注入工法の種類： ・※自動式低圧エボキシ樹脂注入工法・手動式エボキシ樹脂注入工法 ・機械式エボキシ樹脂注入工法・ ◎自動式低圧エボキシ樹脂注入工法 注入間隔： ・※200～300mm・300～400mm・ 注入量： ・約cc/m ◎手動式エボキシ樹脂注入工法 注入間隔： ・200～300mm・300～400mm・ ◎機械式エボキシ樹脂注入工法 注入間隔： ・200～300mm・300～400mm・ コア抜取り検査： ・行わない・行う【個数：※1個／500m】 コア抜き取り部の補修方法： ・エボキシ樹脂モルタル充填・ボリマーセメントモルタル充填 ◎充填 充填材： ・シリカゲル用材充填・シリカゲル材の上にボリマーセメント充填・可とう性エボキシ樹脂充填・	4.7 タイル部分張替え工法	◎有機系接着剤によるタイル張り 下地調整塗材塗りコンクリート素地面処理： ・素肌・目荒し工法 下地調整塗材塗りの接着力試験： ・行う・行わない		
	7.2 材 料	7. シーリング 種類及び施工箇所： ・種類は表3.7.1により施工箇所は下表による ノンブリードタイプシーリング材の適用： ・使用する・使用しない 施工箇所： ・ポリウレタンシーリングで仕上げありの部位・ 施工部位 各階打継部分 ・軒下伸縮目地 ・カバ止め付け ・サンゴ 施工部 位 シーリング材の種類 目地寸法(mm) 15(W)×10(D) 15(W)×10(D) 5(W)×5(D) 20(W)×10(D) 保証年限 3年 年 年 年 年	2.5 樹脂注入工法	2. コンクリート打放し仕上げ外壁の改修 樹脂注入工法のエボキシ樹脂：・低粘度形・中粘度形 Uカットシール材充填工法用材料： ・シリカゲル材【※1成分形ボリケン系・※2成分形ボリケン系】 ・可とう性エボキシ樹脂・ボリマーセメントモルタル シール工法用材料： ・パテ状エボキシ樹脂・可とう性エボキシ樹脂 充填工法用材料： ・エボキシ樹脂モルタル・ボリマーセメントモルタル 注入工法の種類： ・※自動式低圧エボキシ樹脂注入工法・手動式エボキシ樹脂注入工法 ・機械式エボキシ樹脂注入工法・ ◎自動式低圧エボキシ樹脂注入工法 注入間隔： ・※200～300mm・300～400mm・ 注入量： ・約cc/m ◎手動式エボキシ樹脂注入工法 注入間隔： ・200～300mm・300～400mm・ ◎機械式エボキシ樹脂注入工法 注入間隔： ・200～300mm・300～400mm・ コア抜取り検査： ・行わない・行う【個数：※1個／500m】 コア抜き取り部の補修方法： ・エボキシ樹脂モルタル充填・ボリマーセメントモルタル充填 ◎充填 充填材： ・シリカゲル用材充填・シリカゲル材の上にボリマーセメント充填・可とう性エボキシ樹脂充填・	4.8 タイル張替え工法	◎有機系接着剤によるタイル張り 下地調整塗材塗りコンクリート素地面処理： ・素肌・目荒し工法 下地調整塗材塗りの接着力試験： ・行う・行わない		
	7.3 目地寸法	7. シーリング 種類及び施工箇所： ・種類は表3.7.1により施工箇所は下表による ノンブリードタイプシーリング材の適用： ・使用する・使用しない 施工箇所： ・ポリウレタンシーリングで仕上げありの部位・ 施工部位 各階打継部分 ・軒下伸縮目地 ・カバ止め付け ・サンゴ 施工部 位 シーリング材の種類 目地寸法(mm) 15(W)×10(D) 15(W)×10(D) 5(W)×5(D) 20(W)×10(D) 保証年限 3年 年 年 年 年	2.6 Uカットシール材充填工法	3. モルタル塗り仕上げ外壁の改修 モルタル塗替え工法用材料： ・現場調合モルタル・既調合モルタル アンカーピンニング(注入口付アンカーピンニング)注入工法用材料： ・ボリマーセメントストラリー・ アンカーピンの材質： ・※ステンレス鋼(SUS304・Φ4mm・全ねじ)・図示・ 注入口付アンカーピンの材質： ・※ステンレス鋼(SUS304・Φ6mm)・図示・ 充填 充填材： ・シリカゲル用材充填・シリカゲル材の上にボリマーセメント充填・可とう性エボキシ樹脂充填・	4.9 その他	令和7年度 入善町公共下水道事業 工事名 入善浄化センター建築改修工事 工事箇所 入善町東五十里地内 図称 建築改修工事特記仕様書(2) 縮尺 1/- 設計年月日 令和7年1月 番号 A-4 課長 係長 合議 審査 設計者 入善町役場		
	7.4 保証年限	※簡易接着性試験・引張接着性試験 シーリング保証書： ・提出する・提出しない ・保証書(請負人、材料製造所、シーリング施工者連帯保証)は各2通提出すること。	8.2 材 料	8. とい 軒といの材種： ・アスファルト被覆鋼板・耐候性被覆鋼板 縦といの材種： ・配管用鋼管・塩化ビニル管【カラーベン・VP・VU】 掃除口： ・有・無 飾り枠： ・塗装製・銅板製・	8.3 材 料	8. とい 軒といの材種： ・アスファルト被覆鋼板・耐候性被覆鋼板 縦といの材種： ・配管用鋼管・塩化ビニル管【カラーベン・VP・VU】 掃除口： ・有・無 飾り枠： ・塗装製・銅板製・	8.4 外 壁 改 修 工 事	8. とい 軒といの材種： ・アスファルト被覆鋼板・耐候性被覆鋼板 縦といの材種： ・配管用鋼管・塩化ビニル管【カラーベン・VP・VU】 掃除口： ・有・無 飾り枠： ・塗装製・銅板製・</td

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項		
5 章 建 具 改 修 工 事	10.3 性能等	10. 自閉式上吊り引戸装置 自閉式上吊り引戸装置の性能：※表5.10.1による・ 11. 重量シャッター シャッターの種類：・図示・管理用シャッター・外壁用防火シャッター ・屋内用防火シャッター・防煙シャッター・ 耐風圧性能：・50・80・120・ 開閉機能：・※電動式（手動併用）・手動式・ シャッターケース：・図示・設ける・設けない 保護装置の設置：・図示・ 障害物感知装置の設置：・図示・ 危害防止機構の種別：・自動閉鎖型・可動座金式・図示 管理用シャッターのシャッターケース：※図示・設ける・設けない	6 章 内 装 改 修 工 事	3.2 工法	3. 既存壁の撤去並びに下地補修 コンクリート間仕切壁等の撤去に伴う構造体の補修：※行う・既存のまま ・モルタル塗り（改修標準仕様書4.4.9による）・図示・ 5. 木下地等 ◎一般事項 木材の含水率：※A種・B種 木材のホルムアルデヒド放散量：※F☆☆☆☆・図示 ◎製材	6 章 内 装 改 修 工 事	△JAS以外の造作用単板積層材：・下表による（寸法は図示）・図示・ 使用部位 仕上げ 表面の品質 防腐防蟻処理 含水率 備考 仕上有 1等 ・有・無 ※14% 天然木化粧加工 仕上有 2等 ・有・無 未仕上 3等 ・有・無 ◎直交集成板 △JASによる直交集成板	使用部位 曲げ強度 種別 接着性能 樹種区分 備考 Mx120-3-3 A種構成 使用環境A S1 Mx 60-9-9 B種構成 使用環境B S2 S120-3-3 使用環境C S3 S 30-9-9 S4 ◎床張り用合板等		
12.2 形式及び機構	12. 軽量シャッター 開閉形式：・※手動式・電動式（手動併用）・ <開閉形式>：・※手動式・電動式（手動併用）・ 耐風圧性能：・50・80・120・ スラットの材質：※塗装溶融亜鉛めっき鋼板・ステンレス鋼板 ※塗装溶融亜鉛-5%ミクム合金めっき鋼板・7ルミ押出型材 <パイプの材質>：・ステンレス・スチール・ <パイプ径>：・図示・13mm・16mm・19mm・ <パイプ間隔>：・図示・70mm・ <格子間隔>：・図示・500mm・ スラットの形状：・イターロキング形・オーバーラッピング形	12.3 材料	12.3 材料	△JASによる下地用材：・下表による（寸法は図示）・図示・ 使用部位 樹種 区分等級 含水率 仕上げ 防腐防蟻処理 備考 窓枠 カ 無節 SD15 サンダー・有・無 床仕上げ板 杉 ※上小節 SD18 サンダー・有・無 カーテンボックス 桧 ※小節 D15 ブレーナー・有・無 段板 並 D18 ブレーナー・有・無 巾木	△JASによる造作用材：・下表による（寸法は図示）・図示・ 使用部位 樹種 区分等級 含水率 仕上げ 防腐防蟻処理 備考 全般 カキ 特等 D10 サンダー・有・無 ナラ ※1等 D13 サンダー・有・無 カツラ 2等 ブレーナー・有・無 防腐処理：K1	△JASによる普通合板	使用部位 表板樹種名 厚さ（mm） 接着の程度 板面の品質 等級・処理・寸法等 ラワン ※5.5 ※1類 シナ 9 2類 1等 12 ※C-D			
12.4 形状及び仕上げ	13. オーバーヘッドドア セクション材料による区別：・図示・下表による セクション材料による区別 開閉方式による種類 収納形式による区分 ガイドレールの材料 ・スチールタイプ ・パラソル式 ・スタンダード形 ・鋼製 ・アルミニウムタイプ ・センサー式 ・ハイドロ・ローハンドル形 ・ステンレス製 ・ファイバーグラスタイプ ・電動式 ・バーチカル形	13.3 材料	13.3 材料	△JASによる広葉樹製材：・下表による（寸法は図示）・図示・ 使用部位 樹種 区分等級 含水率 仕上げ 防腐防蟻処理 備考 全般 カキ 特等 D10 サンダー・有・無 ナラ ※1等 D13 サンダー・有・無 カツラ 2等 ブレーナー・有・無 防腐処理：K1	△JASによる化粧ばり構造用合板	使用部位 表板樹種名 厚さ（mm） 接着の程度 板面の品質 備考 外壁・内壁耐力壁 針葉樹 1級 特類 A-B F☆☆☆☆/防虫処理材 各室床下地捨て張り シナ 2級 1類 B-C カツラ D-D				
13.2 形式及び機構	14. ガラス ガラスの種類：・図示・ ガラス留め材 金属性製建具用バテはJISA5752による。	14.2 材料	14.2 材料	△JAS以外の製材：・下表による（寸法は図示）・図示・ 使用部位 樹種 材面の品質 合水率 パラ法 防腐防蟻処理 備考 桧 ※A種 15% 図示 杉 B種 18% 図示 松 20%	△JASによる天然木化粧合板	使用部位 品名 厚さ（mm） 表板樹種名 接着の程度 備考 12 1類 F☆☆☆☆/防虫処理材 15 2類 F☆☆☆☆/防虫未処理				
14.3b 5m溝の寸法、形状等	14.3b 5m溝の寸法、形状等	14.4 フローリング	14.4 フローリング	代用樹種を使用する場合は、協議のうえ決定する。 代用樹種を適用しない箇所：・図示・ ◎造作用集成材 接着剤のormアヘビド放散量：※F☆☆☆☆・F☆☆☆・	△JASによる特殊加工化粧合板	使用部位 品名 厚さ（mm） 表面性能517 接着の程度 備考 12 ·F・FW 1類 オーバーレイ/防虫処理材 15 ·W・SW 2類 ブリント/防虫未処理				
14.5b 5m溝の寸法、形状等	14.5b 5m溝の寸法、形状等	14.5b 5m溝の寸法、形状等	14.5b 5m溝の寸法、形状等	△バーティカルボード 使用部位 厚さ（mm） 曲げの区分 接着の区分 難燃性区分 備考 ※15	△JASによる構造用パネル	使用部位 品名 厚さ（mm） 曲げ等級 備考 国示 ·1級・2級 オーバーレイ/防虫処理材 25 ·3級・4級 ブリント・塗装/防虫未処理				
6 章 内 装 改 修 工 事	1.3 他の部位との取合い等	1. 共通事項 既存間仕切り壁撤去に伴う天井、壁及び床の改修範囲：※壁厚程度・図示 天井内の既存壁の撤去に伴う取り合い天井改修範囲：※両側600mm程度・図示 天井の撤去に伴う取り合い壁の改修範囲：※既存のまま・図示 既存部分の撤去工法： ・適用する【・標準仕様書6.2・標準仕様書6.3・標準仕様書6.4】・図示 新設下地の工法： ・適用する【・標準仕様書6.5・標準仕様書6.6・標準仕様書6.7】・図示 仕上げの工法：※該当項の有無により適用する・図示 2. 既存床の撤去並びに下地補修 合成樹脂塗り床材の除去：・機械的除去工法・目荒工法・ 改装後の床の清掃範囲：・影響範囲全て・図示	2.2 工法	△JAS以外の化粧ばり造作用集成材：・下表による（寸法は図示）・図示・ 使用部位 仕上げ 樹種 見付材 面 品質 区分等級 備考 仕上有 心材 化粧材/厚さ 1面 ※1等 1等 未仕上 4面 2等 2等 塗装	△JASによる化粧ばり造作用集成材：・下表による（寸法は図示）・図示・ 使用部位 仕上げ 樹種 見付材 面 品質 区分等級 備考 仕上有 心材 化粧材/厚さ 1面 ※1等 1等 未仕上 4面 2等 2等 塗装	△JAS以外の造作用集成材：・下表による（寸法は図示）・図示・ 使用部位 仕上げ 樹種 見付材 面 品質 区分等級 備考 仕上有 1面 ※1等 1等 ※15% 未仕上 4面 2等 2等 塗装	△JASによる化粧ばり造作用集成材：・下表による（寸法は図示）・図示・ 使用部位 仕上げ 樹種 見付材 面 品質 区分等級 備考 仕上有 心材 化粧材/厚さ 1面 ※1等 1等 未仕上 4面 2等 2等 塗装	△JASによる造作用単板積層材 接着剤のormアヘビド放散量：※F☆☆☆☆・F☆☆☆・ △JASによる造作用単板積層材：・下表による（寸法は図示）・図示・ 使用部位 仕上げ 表面の品質 防腐防蟻処理 含水率 備考 仕上有 1等 ・有・無 ※14% 天然木化粧加工 仕上有 2等 ・有・無 未仕上 3等 ・有・無	5.3 接合具等 5.4 木れんが 5.5 防腐・防蟻・防虫処理 ◎造作用単板積層材 接着剤のormアヘビド放散量：※F☆☆☆☆・F☆☆☆・ ◎薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理 處理木材（部位） 性能区分 備考 製材 ·K2・K3・K4 合板 ·K2・K3・K4 集成材 加圧注入用木材のインサージング：・適用する・摘要しない	令和7年度 入善町公共下水道事業 工事名 入善浄化センター建築改修工事 工事箇所 入善町東五十里地内 団体名 建築改修工事特記仕様書(4) 緯尺 1/- 設計年月日 令和年月日 番号 A-6 課長 係長 合議 審査 設計者 入善町役場

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項		
6章 内装改修工事	5.6~5.9 ***木材、工法	薬剤の塗布による防腐・防蟻処理の方法：※標準仕様書による ホーリー原接着剤への薬剤混入による防腐・防蟻処理の方法： ◎防虫処理 木材の防虫処理： 樹種：※下表を標準とし変更する場合は、事前に監督員の承諾を得る事。 使用箇所 ・RC造等の内部間仕切軸組及び床組 ・間仕切軸組 ・床組 ・窓、出入口、その他 ・吊元枠、水掛かりの下枠及び敷居 ・桧 ・床板張り ・縁甲板、上がり框 ・桧 ・壁及び天井下地 ・杉又松	6章 内装改修工事	9.2 材料	9. カーペット敷き ◎織じゅうたん 種別：A種・B種・C種 パイアル形状：カットバイル・ループバイル・カット/ループ併用 色柄：※無地・柄物 帯電性の適用：適用しない・適用する(人体帶電圧：※3kV以下) ◎タフテッドカーペット パイアル形状：ループ・カット パイアル長：図示・mm ◎タイルカーペット パイアル形状 種類 寸法(mm) 総厚さ(mm) ・ループバイル ・カットバイル ・カット/ループ併用	6章 内装改修工事	13.2 材料	材種 樹種、防虫・難燃・防煙処理等 厚さ(mm) 工法	13.3 工法	・天然木化粧合板 化粧単板のそば込み ・4.2 ・A種
5.* 壁木		樹種：ナラ・ケヤキ・サクラ・クリ・シオノ					・行う ※行わない 化粧単板の厚さ ※0.3未満	・行う ※行わない ※B種		
5.* 銀木		樹種： 種別：真物・貼物 樹種： 使用箇所： 6. 軽量鉄骨天井下地 種類：※表6.6.1による 屋外の野線受け、吊りボルト、インサートの間隔：△@900mm 屋外の野線の間隔：※表6.6.2による 既存埋込インサートの使用：使用する・使用しない あと施工アンカーの引抜き試験：行わない・行う 試験法：標準仕様書による・図示 吊ボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法：・図示 天井ふとこらが3mを超える場合の補強方法：・図示 屋外の軒天井、ビロティーハーフの補強： ・図示・吊りボルトは配管類及びダクト等とは絶縁して取り付ける。 ・天井内配管類及びダクト等により、野線受けを吊れない場合には、野線受けの断面を大きくするか又は補強用チャンネル、アングル等を用いて十分補強を行う。		9.3 工法	◎下敷き材 下敷き材：※反毛フェルト第2種2号(呼厚8mm) タフテッドカーペットの工法：グリップ工法・全面接着工法 織じゅうたんの接合方法：ヒートボンド工法・手縫い(づり縫い) タイルカーペットの敷き方(平場)：※市松敷き (階段部分)：※模様流し		14.2 材料	品質 防火性能の指定 検定区分 施工箇所	14. 壁紙張り 防火性能の指定：下表による・図示	
6.2 材料	6.3 形式及び寸法	6.4 工法	10.2 材料	10.0 合成樹脂塗床	種類 仕上げ種類 備考	10.3 工法	10.1 モルタル面及びプラスチ一面の下地調整 コンクリート面の下地調整：RA種・RB種・RC種	14.3 施工	モルタル面及びプラスチ一面の下地調整：RA種・RB種・RC種	
7.3 形式及び寸法	7.4 工法	8.2 材料	11.2 材料	11.1 フローリング張り フローリング：※F☆☆☆☆・図示 接着剤：※F☆☆☆☆・図示	11.3~11.5 ***工法	11.0 モルタル面及びプラスチ一面の下地調整 セコウボード面及びその他ボード面の下地調整：RA種・RB種・RC種	15.3 材料	15.1 モルタル塗り モルタル：現場調合材料・既調合材料 既製目地：適用・不適用 既製目地の形状寸法等：図示 床の目地：設ける・設けない 工法：※押し目地・切り目地	15. モルタル塗り モルタル：現調合材料・既調合材料	
8.2 材料	8.3 工法	11.6 現場塗装仕上げ	12.2 材料	12.1 フローリング張り 種類：A種・B種・C種・D種(・KT-I・KT-II・KT-III・KT-K・KT-N) 衝撃緩和型番の適用：適用する【豊表：C1・C2】・適用しない	11.3 フローリング 種類 材種 工法 形式寸法等(mm)LxWx t ・フローリングボード1等 ・ナラ・サクラ ・複合フローリング ・ナラ・サクラ ・接着工法	13.2 材料	13.1 せっこうボード その他のボード及び合板張り 規格名称 種類 記号 厚さ(mm)	16.1 一般事項	16. フローリング張り 伸縮調整目地の位置：※@4m(縦・横共)・図示 タイルの見本焼き：行う・行わない タイルの試験張り：行う・行わない タイルの種類：図示・下表による	16. フローリング張り 伸縮調整目地の位置：※@4m(縦・横共)・図示 タイルの見本焼き：行う・行わない タイルの試験張り：行う・行わない タイルの種類：図示・下表による
8.2 材料	8.3 工法		13.3 工法	13.2 せっこうボード その他のボード及び合板張り 規格名称 種類 記号 厚さ(mm)	13.1 せっこうボード 製品 繊維強化セメント板 ・ケイ酸カルシウム板(タイガ2) ・0.8FK ・1.0FK ・RS・VS ・DV・DO・DC ・火山性ガラス質複層板(VSボード) ・	13.3 工法	13.2 せっこうボード 製品 繊維強化セメント板 ・ケイ酸カルシウム板(タイガ2) ・0.8FK ・1.0FK ・RS・VS ・DV・DO・DC ・火山性ガラス質複層板(VSボード) ・	16.2 壁タイル張り 壁タイル張り工法：改良積上張り 張付けモルタル：現場調合材料・既調合材料	16.2 壁タイル張り 壁タイル張り工法：改良積上張り	
8.2 材料	8.3 工法		17.2 材料	17.1 セメント系接着剤による接着 タイルの種類：図示・下表による 施工箇所 形式・形状寸法 (mm) 用途による区分 耐凍害性 色 種類 備考	17.1 セメント系接着剤による接着 タイルの種類：図示・下表による 施工箇所 形式・形状寸法 (mm) 用途による区分 耐凍害性 色 種類 備考	17.2 材料	17.1 セメント系接着剤による接着 タイルの種類：図示・下表による 施工箇所 形式・形状寸法 (mm) 用途による区分 耐凍害性 色 種類 備考	17. セルフレベリング材塗り 品質：セメント系・せっこう系 厚さ：10mm・図示	17. セルフレベリング材塗り 品質：セメント系・せっこう系 厚さ：10mm・図示	

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	
7章 塗装改修工事	1.3 材料 2.2~2.7 ***下地調整	1. 共通事項 塗料の防火材料の指定：・図示・無・有() 2. 下地調整 塗装面の種類 種別 木部（不透明塗料塗り部） ※A種・RB種・RC種 木部（透明系塗料塗り部） A種・RB種・RC種 鉄鋼面 A種・RB種・RC種 亜鉛めっき鋼面 A種・RB種・RC種 モルタル、プラスチ一面 A種・RB種・RC種 コンクリート、ALCパネル面 A種・RB種・RC種 押出成形セメント板 A種・RB種・RC種 せっこうその他のボード 繼目処理工法の場合：A種・RB種・RC種 その他の場合： A種・RB種・RC種 3. 素地ごしらえ 塗装面の種類 種別 木部（不透明塗料塗り部） ※A種・B種 木部（透明系塗料塗り部） A種・B種 鉄鋼面 A種・B種・C種 亜鉛めっき鋼面 A種・B種 モルタル、プラスチ一面 A種・B種 コンクリート、ALCパネル面 A種・B種 押出成形セメント板 A種・B種 せっこうその他のボード 繼目処理工法の場合：※A種・B種 その他の場合： A種・B種 4. 銀止め塗料塗り 鉄鋼面（上塗りEP-Gの場合） A種・B種 亜鉛めっき鋼面（上塗りSOPの場合） ※A種・B種 鉄鋼面見え掛り部分（新規塗装：上塗りSOP、及びEP-Gの場合） ※A種・B種・C種 鉄鋼面見え隠れ部分（新規塗装：上塗りSOP、及びEP-Gの場合） A種・B種・C種 鉄鋼面見え掛り部分（塗替え：上塗りSOP、及びEP-Gの場合） A種・B種・C種 鉄鋼面（DPの場合） ※A種・B種・C種 5. 合成樹脂調合ペイント塗り（SOP） 種別：※1種・2種 木部の種別（新規外部）：※A種・B種 木部の種別（新規内部）： A種・B種 木部の種別（多孔質広葉樹）： A種・B種 木部の種別（塗替え）： A種・B種 鉄鋼面の種別： A種・B種 亜鉛めっき鋼面の種別（塗替え）： ※A種・B種 亜鉛めっき鋼面の種別（新規）： A種・B種 6. クリヤーラッカ塗り（CL） 種別： A種・B種 7. アクリル樹脂系非分散形塗料塗り（NAD） 種別： A種・B種 8. 耐候性塗料塗り（DP） 鉄鋼面の上塗り塗料の等級： ○級・2級・3級 亜鉛めっき鋼面の上塗り塗料の等級： 1級・2級・3級 コンクリート面の種別： A-1種・A-2種・B-1種・B-2種・C-1種・C-2種 押出成形セメント板面の種別： A-1種・A-2種・B-1種・B-2種・C-1種・C-2種 9. つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（EP-G） コンクリート面及びモルタル面の種別： A種・B種・C種 プラスチ一面の種別： A種・B種・C種 せっこうボード、及びその他のボード面の種別： A種・B種・C種 塗替えの場合のしみ止め： 標準仕様書7.9.2(b)による 図示 屋内木部の種別（新規）： ※A種・B種・C種 屋内木部の種別（多孔質広葉樹）： A種・B種・C種 屋内木部の種別（塗替え）： A種・B種・C種 屋内鉄鋼面の種別： A種・B種・C種 屋内亜鉛めっき鋼面の種別： A種・B種・C種 10. 合成樹脂エマルションペイント塗り（EP） 種別： A種・B種・C種 塗替えの場合のしみ止め： 標準仕様書7.13.2(b)による 図示	7章 塗装改修工事	11.2 ***塗料塗り 12.2 ***塗料塗り 13.2 ***塗料塗り	1.1. ウレタン樹脂ワニス塗り（UC） 種別： A種・B種 1.2. スtein塗り 塗料の種別： 図示 1.3. 木材保護塗料塗り（WP） 種別： A種・B種	8章 耐震改修工事	2.8 鋼材 2.9 高力ボルト 2.10 熔接材料 2.11 ハンド 2.12 柱底均しmolタル及び外付 2.13 連続継維シート及び 合浸接着樹脂等 2.14 鋼材の材料試験等 2.15 基礎工事に用いる材料 3.4 継手及び定着 3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 3.7 壁の配筋及び補強 3.8 ガス圧接 4.2 機械式継手 4.3 熔接継手 7.8 型枠工事	鋼材の材質： 下表による 図示 構造特記仕様書による 施工部位 材質（種類の記号） 備考 ・構造躯体 SS400・SSC400 ・構造躯体（階～階） SM490A ・構造躯体（階～階） STK400 ・BCR295 ・SN400C・SN400A 鋼材の形状及び寸法： 図示 種類： トド型高力ボルト2種（S10T） JISの高力ボルト2種（F10T） 溶融亜鉛めっき高力ボルト1種（F8T相当） 高力ボルトの径： 図示 表B.2.9以外の溶接材料： 図示 スタッドの規格、形状、寸法等： 下表による 図示 施工部位 規格番号 形状、寸法 備考 ・2階床より上部各階床スラブ JIS B 1198 ・屋根スラブ 柱底均しモルタル： ※無収縮モルタル 図示 材料： 図示 工法： 図示 引張強度、ヤング係数： 図示 引張りを受ける鋼板の試験： 適用する 適用しない 図示 杭の材料： 構造特記仕様書による 図示 杭の継手、工法等： 構造特記仕様書による 図示 3. 鉄筋の加工及び組立 継手の種類： 重ね継手・がく圧接継手・機械継手 図示 継手の位置： 図示 主筋の重ね継手長さ： 標準仕様書8.3.4による 図示 耐力壁鉄筋の重ね継手長さ： 標準仕様書8.3.4による 図示 先組み工法等の継手の位置： 図示 柱への梁引き張り鉄筋の定着長さ： 表8.3.4による 図示 折曲げ定着の方法： 図8.3.3による 図示 機械式定着工法の適用箇所、種類： 図示 鉄筋等のかぶり厚さ： 表8.3.6による 図示 土に接する柱、梁、スラブ及び壁の鉄筋のかぶり厚さ（軽量コンクリートの場合）： 図示 40mm・50mm・60mm 塩害を受ける恐れのある部分等の鉄筋のかぶり厚さ： 図示 壁の配筋： 図示 開口部の補強筋： 図示 抜取試験の方法： 超音波探傷試験・引張試験 4. 鉄筋の機械式継手及び溶接継手 適用箇所： 図示 性能・種類等： 図示 鉄筋相互のあき： 図示 施工完了後の継手部の試験は（公社）日本鉄筋協会発行の鉄筋継手工事標準仕様書等に基づき検査を行う。 抜取り1ロットは同一作業班の1日当たりの継手作業箇所とする。（概ね200箇所程度） 外観検査方法： 目視及び計測 図示 超音波探傷検査の対象： 抽取1ロット当り10箇所 抽き取り1ロット当り5%程度 超音波探傷検査で不合格となった場合の措置： 全数検査を行い是正する 図示 適用箇所： 図示 性能・工法等： 図示 鉄筋相互のあき： 図示 施工完了後の継手部の試験は（公社）日本鉄筋協会発行の鉄筋継手工事標準仕様書等に基づき検査を行う。 抜取り1ロットは同一作業班の1日当たりの継手作業箇所とする。（概ね200箇所程度） 外観検査方法： 目視及び計測 図示 超音波探傷検査の対象： 抽取1ロット当り30箇所 抽き取り1ロット当り15%程度 超音波探傷検査で不合格となった場合の措置： 全数検査を行い是正する 図示 7. コンクリートの工事現場内運搬、打込み及び締固め 外部に面する打放し仕上げの増打厚さ： 25mm・20mm・15mm 型枠セパレーターとしてのシアコネクタの使用： 適用する 適用しない	令和7年度 入善町公共下水道事業 工事名 入善浄化センター建築改修工事 工事箇所 入善町東五十里地内 図称 建築改修工事特記仕様書(6) 総尺 1/- 設計年月日 令和年月日 番号 A-8 課長係長合議審査設計者 入善町役場
8章 塗装改修工事	1.3 材料 3.1~3.7 ***素地ごしらえ 4.2 塗料種別 4.3 銀止め塗料塗り 5.2 塗料の種別 5.3~5.5 ***塗料塗り 6.2 ***塗料塗り 7.2 ***塗料塗り 8.2~8.4 ***塗料塗り 9.2~9.5 ***塗料塗り 10.2 ***塗料塗り	1. 共通事項 塗料の防火材料の指定： 図示・無・有() 2. 下地調整 塗装面の種類 種別 木部（不透明塗料塗り部） ※A種・RB種・RC種 木部（透明系塗料塗り部） A種・RB種・RC種 鉄鋼面 A種・RB種・RC種 亜鉛めっき鋼面 A種・RB種・RC種 モルタル、プラスチ一面 A種・RB種・RC種 コンクリート、ALCパネル面 A種・RB種・RC種 押出成形セメント板 A種・RB種・RC種 せっこうその他のボード 繼目処理工法の場合：A種・RB種・RC種 その他の場合： A種・RB種・RC種 3. 素地ごしらえ 塗装面の種類 種別 木部（不透明塗料塗り部） ※A種・B種 木部（透明系塗料塗り部） A種・B種 鉄鋼面 A種・B種・C種 亜鉛めっき鋼面 A種・B種 モルタル、プラスチ一面 A種・B種 コンクリート、ALCパネル面 A種・B種 押出成形セメント板 A種・B種 せっこうその他のボード 繼目処理工法の場合：※A種・B種 その他の場合： A種・B種 4. 銀止め塗料塗り 鉄鋼面（上塗りEP-Gの場合） A種・B種 亜鉛めっき鋼面（上塗りSOPの場合） ※A種・B種 鉄鋼面見え掛り部分（新規塗装：上塗りSOP、及びEP-Gの場合） ※A種・B種・C種 鉄鋼面見え隠れ部分（新規塗装：上塗りSOP、及びEP-Gの場合） A種・B種・C種 鉄鋼面見え掛け部分（塗替え：上塗りSOP、及びEP-Gの場合） A種・B種・C種 鉄鋼面（DPの場合） ※A種・B種・C種 5. 合成樹脂調合ペイント塗り（SOP） 種別：※1種・2種 木部の種別（新規外部）：※A種・B種 木部の種別（新規内部）： A種・B種 木部の種別（多孔質広葉樹）： A種・B種 木部の種別（塗替え）： A種・B種 鉄鋼面の種別： A種・B種 亜鉛めっき鋼面の種別（塗替え）： ※A種・B種 亜鉛めっき鋼面の種別（新規）： A種・B種 6. クリヤーラッカ塗り（CL） 種別： A種・B種 7. アクリル樹脂系非分散形塗料塗り（NAD） 種別： A種・B種 8. 耐候性塗料塗り（DP） 鉄鋼面の上塗り塗料の等級： ○級・2級・3級 亜鉛めっき鋼面の上塗り塗料の等級： 1級・2級・3級 コンクリート面の種別： A-1種・A-2種・B-1種・B-2種・C-1種・C-2種 押出成形セメント板面の種別： A-1種・A-2種・B-1種・B-2種・C-1種・C-2種 9. つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（EP-G） コンクリート面及びモルタル面の種別： A種・B種・C種 プラスチ一面の種別： A種・B種・C種 せっこうボード、及びその他のボード面の種別： A種・B種・C種 塗替えの場合のしみ止め： 標準仕様書7.9.2(b)による 図示 屋内木部の種別（新規）： ※A種・B種・C種 屋内木部の種別（多孔質広葉樹）： A種・B種・C種 屋内木部の種別（塗替え）： A種・B種・C種 屋内鉄鋼面の種別： A種・B種・C種 屋内亜鉛めっき鋼面の種別： A種・B種・C種 10. 合成樹脂エマルションペイント塗り（EP） 種別： A種・B種・C種 塗替えの場合のしみ止め： 標準仕様書7.13.2(b)による 図示	2.1 鉄筋 2.2 溶接金網 2.4 あと施工アンカー 1.5 鉄骨製作工場 2.1 鉄筋 2.2 溶接金網 2.4 あと施工アンカー 2.5 コンクリートの材料及び調合 2.6 構造体用セメントの 材料及び調合 2.7 型枠の材料	1. 共通事項 塗料の防火材料の指定： 図示・無・有() 2. 下地調整 塗装面の種類 種別 木部（不透明塗料塗り部） ※A種・RB種・RC種 木部（透明系塗料塗り部） A種・RB種・RC種 鉄鋼面 A種・RB種・RC種 亜鉛めっき鋼面 A種・RB種・RC種 モルタル、プラスチ一面 A種・RB種・RC種 コンクリート、ALCパネル面 A種・RB種・RC種 押出成形セメント板 A種・RB種・RC種 せっこうその他のボード 繼目処理工法の場合： A種・RB種・RC種 その他の場合： A種・RB種・RC種 3. 素地ごしらえ 塗装面の種類 種別 木部（不透明塗料塗り部） ※A種・B種 木部（透明系塗料塗り部） A種・B種 鉄鋼面 A種・B種・C種 亜鉛めっき鋼面 A種・B種 モルタル、プラスチ一面 A種・B種 コンクリート、ALCパネル面 A種・B種 押出成形セメント板 A種・B種 せっこうその他のボード 繼目処理工法の場合：※A種・B種 その他の場合： A種・B種 4. 銀止め塗料塗り 鉄鋼面（上塗りEP-Gの場合） A種・B種 亜鉛めっき鋼面（上塗りSOPの場合） ※A種・B種 鉄鋼面見え掛け部分（新規塗装：上塗りSOP、及びEP-Gの場合） ※A種・B種・C種 鉄鋼面見え隠れ部分（新規塗装：上塗りSOP、及びEP-Gの場合） A種・B種・C種 鉄鋼面見え掛け部分（塗替え：上塗りSOP、及びEP-Gの場合） A種・B種・C種 鉄鋼面（DPの場合） ※A種・B種・C種 5. 合成樹脂調合ペイント塗り（SOP） 種別：※1種・2種 木部の種別（新規外部）：※A種・B種 木部の種別（新規内部）： A種・B種 木部の種別（多孔質広葉樹）： A種・B種 木部の種別（塗替え）： A種・B種 鉄鋼面の種別： A種・B種 亜鉛めっき鋼面の種別（塗替え）： ※A種・B種 亜鉛めっき鋼面の種別（新規）： A種・B種 6. クリヤーラッカ塗り（CL） 種別： A種・B種 7. アクリル樹脂系非分散形塗料塗り（NAD） 種別： A種・B種 8. 耐候性塗料塗り（DP） 鉄鋼面の上塗り塗料の等級： ○級・2級・3級 亜鉛めっき鋼面の上塗り塗料の等級： 1級・2級・3級 コンクリート面の種別： A-1種・A-2種・B-1種・B-2種・C-1種・C-2種 押出成形セメント板面の種別： A-1種・A-2種・B-1種・B-2種・C-1種・C-2種 9. つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（EP-G） コンクリート面及びモルタル面の種別： A種・B種・C種 プラスチ一面の種別： A種・B種・C種 せっこうボード、及びその他のボード面の種別： A種・B種・C種 塗替えの場合のしみ止め： 標準仕様書7.9.2(b)による 図示 屋内木部の種別（新規）： ※A種・B種・C種 屋内木部の種別（多孔質広葉樹）： A種・B種・C種 屋内木部の種別（塗替え）： A種・B種・C種 屋内鉄鋼面の種別： A種・B種・C種 屋内亜鉛めっき鋼面の種別： A種・B種・C種 10. 合成樹脂エマルションペイント塗り（EP） 種別： A種・B種・C種 塗替えの場合のしみ止め： 標準仕様書7.13.2(b)による 図示	1. 共通事項 塗料の防火材料の指定： 図示・無・有() 2. 下地調整 塗装面の種類 種別 木部（不透明塗料塗り部） ※A種・RB種・RC種 木部（透明系塗料塗り部） A種・RB種・RC種 鉄鋼面 A種・RB種・RC種 亜鉛めっき鋼面 A種・RB種・RC種 モルタル、プラスチ一面 A種・RB種・RC種 コンクリート、ALCパネル面 A種・RB種・RC種 押出成形セメント板 A種・RB種・RC種 せっこうその他のボード 繼目処理工法の場合： A種・RB種・RC種 その他の場合： A種・RB種・RC種 3. 素地ごしらえ 塗装面の種類 種別 木部（不透明塗料塗り部） ※A種・B種 木部（透明系塗料塗り部） A種・B種 鉄鋼面 A種・B種・C種 亜鉛めっき鋼面 A種・B種 モルタル、プラスチ一面 A種・B種 コンクリート、ALCパネル面 A種・B種 押出成形セメント板 A種・B種 せっこうその他のボード 繼目処理工法の場合：※A種・B種 その他の場合： A種・B種 4. 銀止め塗料塗り 鉄鋼面（上塗りEP-Gの場合） A種・B種 亜鉛めっき鋼面（上塗りSOPの場合） ※A種・B種 鉄鋼面見え掛け部分（新規塗装：上塗りSOP、及びEP-Gの場合） ※A種・B種・C種 鉄鋼面見え隠れ部分（新規塗装：上塗りSOP、及びEP-Gの場合） A種・B種・C種 鉄鋼面見え掛け部分（塗替え：上塗りSOP、及びEP-Gの場合） A種・B種・C種 鉄鋼面（DPの場合） ※A種・B種・C種 5. 合成樹脂調合ペイント塗り（SOP） 種別：※1種・2種 木部の種別（新規外部）：※A種・B種 木部の種別（新規内部）： A種・B種 木部の種別（多孔質広葉樹）： A種・B種 木部の種別（塗替え）： A種・B種 鉄鋼面の種別： A種・B種 亜鉛めっき鋼面の種別（塗替え）： ※A種・B種 亜鉛めっき鋼面の種別（新規）： A種・B種 6. クリヤーラッカ塗り（CL） 種別： A種・B種 7. アクリル樹脂系非分散形塗料塗り（NAD） 種別： A種・B種 8. 耐候性塗料塗り（DP） 鉄鋼面の上塗り塗料の等級： ○級・2級・3級 亜鉛めっき鋼面の上塗り塗料の等級： 1級・2級・3級 コンクリート面の種別： A-1種・A-2種・B-1種・B-2種・C-1種・C-2種 押出成形セメント板面の種別： A-1種・A-2種・B-1種・B-2種・C-1種・C-2種 9. つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（EP-G） コンクリート面及びモルタル面の種別： A種・B種・C種 プラスチ一面の種別： A種・B種・C種 せっこうボード、及びその他のボード面の種別： A種・B種・C種 塗替えの場合のしみ止め： 標準仕様書7.9.2(b)による 図示 屋内木部の種別（新規）： ※A種・B種・C種 屋内木部の種別（多孔質広葉樹）： A種・B種・C種 屋内木部の種別（塗替え）： A種・B種・C種 屋内鉄鋼面の種別： A種・B種・C種 屋内亜鉛めっき鋼面の種別： A種・B種・C種 10. 合成樹脂エマルションペイント塗り（EP） 種別： A種・B種・C種 塗替えの場合のしみ止め： 標準仕様書7.13.2(b)による 図示				

令和7年度 1. 美町公共下水道事業

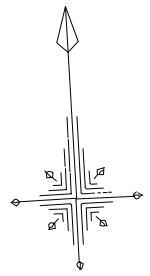
名	入善浄化センター建築改修工事		
箇所	入 善 町 東 五 十 里 地 内		
称	建築改修工事特記仕様書(6)	縮 尺	1/-
年月日	令和 年 月 日	番 号	A-8
長 係 長	合 議	審 査	設計者
入 善 町 役 場			

項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	
8 草 耐震改修工事	9. 軽量コンクリート 土に接する軽量コンクリートの使用：・使用する【使用箇所】：・図示・ 水に接する軽量コンクリートの使用：・使用する【使用箇所】：・図示・ 軽量コンクリート種類：・下表による・図示・ 施工部位 種類 備考 ・屋上防水押え 1種・2種 ・浴室防水押え 1種・2種 所要気乾単位容積重量：・図示・ kN/m ³ 所要スランプ：※21cm・18cm・ 10.2 材料及び調合 構造体強度補正值(S)：※6 N/mm・ 11.1 一般事項 コンクリートの種別：※I類・II類・その他； 適用箇所：・下表による・図示 施工部位 設計基準強度(N/mm ²) 備考 ※18・21 スランプ：※15以下※18以下	8 草 耐震改修工事	21.2 既存部分の撤去等 既存土上げの撤去範囲：※標準仕様書8.21.2(1)(7)による・協議による・ 設備配管等の撤去範囲：※標準仕様書8.21.2(1)(4)による・ 設備配管等の移設範囲等：※標準仕様書8.21.2(1)(4)による・ 既存構造体の撤去範囲：・図示・協議による・ 既存構造体の鉄筋、鉄骨の処置：・図示・ 既存部分の目荒りの程度：・図示・打継ぎ面の15~30%の凹面を施す 割裂補強筋の仕様：・図示・ 打込み工法：・流込み工法・圧入工法・図示・ 既存構造体と増設壁との取合い：※標準仕様書8.21.9による・図示・ 増設後の仕上げ：・図示・ 21.3 既存部分の処理 21.6 鉄筋の加工及び組立 21.8 コルトの打込み 21.9 既存構造体との取合い 21.10 仕上げ	8 草 耐震改修工事	21. 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 既存土上げの撤去範囲：※標準仕様書8.21.2(1)(7)による・協議による・ 設備配管等の撤去範囲：※標準仕様書8.21.2(1)(4)による・ 設備配管等の移設範囲等：※標準仕様書8.21.2(1)(4)による・ 既存構造体の撤去範囲：・図示・協議による・ 既存構造体の鉄筋、鉄骨の処置：・図示・ 既存部分の目荒りの程度：・図示・打継ぎ面の15~30%の凹面を施す 割裂補強筋の仕様：・図示・ 打込み工法：・流込み工法・圧入工法・図示・ 既存構造体と増設壁との取合い：※標準仕様書8.21.9による・図示・ 増設後の仕上げ：・図示・ 22.7 既存構造体との取合い 22.9 仕上げ	8 草 耐震改修工事	28.3 土工事 ◎埋戻し及び盛土 種別：・A種・B種・C種・D種 ・搬入まさ土（砂礫等の混入のない良質なものとし、水締め、機器による締固めとする） ◎建設発生土の処理 ・現場説明書による・構外搬出適切処理※構内指定場所堆積・構内指定場所敷均し ・他現場に搬入（ ・指定処分地（ ◎留めの撤去 ・撤去・存置・ ◎試験杭 試験杭の位置、本数、寸法：・図示・ ◎載荷試験 載荷試験：・水平試験・鉛直試験・ 試験杭の位置、本数、載荷荷重：・図示・ 試験方法：・図示・ 試験報告書の記載事項等：・図示・ ◎地盤の載荷試験 載荷試験：・平板載荷試験・ 試験の位置、載荷荷重：・図示・ 試験方法：・図示・ 試験報告書の記載事項等：・図示・ ◎杭地業は「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」4章[地業工事]による。	28.4 地業工事 試験杭の位置、本数、寸法：・図示・ ◎載荷試験 載荷試験：・水平試験・鉛直試験・ 試験杭の位置、本数、載荷荷重：・図示・ 試験方法：・図示・ 試験報告書の記載事項等：・図示・ ◎杭地業は「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」4章[地業工事]による。
12.4 穴孔 12.7 施工確認試験	12. あと施工アンカーワーク 埋込配管等の調査方法：・電磁波レーダ方式・電磁波誘導法・図示・ 施工確認試験：※引張試験機による引張試験・図示・ 試験の箇所数：※3本/1ロット(径及び仕様毎)・全数・図示 1ロットの定義：※1日に施工されたアカ数(径及び仕様毎)・図示 13.10 仮組 仮組の実施：・行わない・行う 14.2 摩擦面の性能及び処理 すべり係数試験の実施：・行わない・行う 試験の方法、試験片の摩擦面の状態：・図示・ ボルト長さがねじの呼びの5倍をJIS型ボルトのカット回転法の回転量：・120°・ 15.3 ***技能資格者 溶接技能者の技量付加試験：・行わない・行う 開先の形状：・図示・ エンドタブの切除の有無：・有り・無し 【エンドタブの切除の適用箇所】：図示・ スカラップの形状：・図示・ 溶接部の外観試験：※告示第1464号第二号による試験： ※JASS6附則6(付表3「溶接」)： 完全溶け込み溶接部の超音波探傷試験：・適用する・適用しない ◎工場溶接の場合 製作工場の社内検査：・行わない・行う(全数検査を行い試験結果報告書を提出) 第三者機関による検査：・行う・行わない AOQL：・2.5%・※4.0% 検査水準：・第1水準・第2水準・第3水準・第4水準・第5水準・※第6水準 ◎工事現場溶接の場合 第三者機関による検査：・行う・行わない AOQL：・2.5%・※4.0% 放射線透過試験：・適用する・適用しない 17.4 塗料の種別 SRC造の鋼製スリーブ(鉄骨に溶接されたもの)の内面： ・図示・標準仕様書表7.3.1【※A種・B種・C種】・ 耐火被覆材の接着面：・図示・標準仕様書表7.3.1【・A種・B種・C種】・ 18.2 耐火被覆の種類等 耐火被覆材の種類及び性能：※図示・ 耐火被覆材の工法：※図示・吹付工法・巻付け工法・ 耐火被覆の耐火性能：※図示・建築基準法に基づく所定の性能 20.5 溶融亜鉛めっき 高力ボルト接合 摩擦面の処理：※8.20.5(1)(7)・※8.20.5(1)(4) ・構造特記仕様書による・図示 すべり係数試験の実施：・行わない・行う 試験の方法、試験片の摩擦面の状態：・構造特記仕様書による・図示・	28.5 溶接金網巻き工法 溶接鋼ワイヤ巻き工法	2.2. 鉄骨プレースの設置工事 割裂補強筋の仕様：・図示・ プレース設置後の仕上げ：・図示・ 23.1 一般事項 工法の種別：・構造特記仕様書による ・溶接金網巻き工法・溶接閉鎖ワイヤ巻き工法・鋼板巻き工法・帯板巻き付け工法 外部に面する打放し仕上げの増打厚さ：・25mm・20mm・15mm・ 型枠セパレーターとしてのシアコネクタの使用：・適用する・適用しない 打込み工法：・流込み工法・圧入工法・図示・ 工法の種別：・鋼板巻き工法・帯板巻き付け工法 柱脚の隙間：・図示・設ない・設ける 柱頭の隙間：・図示・設ない・設ける 補強工事後の仕上げ：・図示・ 24.6 施工 ひび割れ部の改修工法：・標準仕様書4.1.4に準ずる・図示・ 柱の隅角部の面取りの形状、寸法：・図示・ 連続繊維補強材の引張強度試験の数量：・図示・ 連続繊維補強材の付着強度試験の数量：・図示・ 補強工事後の仕上げ：・図示・ 25.2 施工 スリットの幅、及び深さ：・図示・ 耐火充填材の仕様箇所、及び仕様：・図示・ 遮音充填材の仕様箇所、及び仕様：・図示・ 26.7 支承材及び減衰材 支承材の材質等：・図示・ 減衰材の材質等：・図示・ 性能確認試験の項目：・図示・ 性能確認試験の数量：・図示・ 製品検査の項目等：・図示・ 26.10 支承材又は減衰材の設置 材料の防錆処置：・図示・※製造所仕様による 材料の設置位置寸法の許容差：・図示・・製造所仕様による 割裂補強筋の適用：・図示・ 支承材又は減衰材設置後の仕上げ：・図示・ 支承材への耐火被覆の適用及び仕様：・図示・ 免震化部に設置するエキスパンションジョイントの仕様及び工法： ・図示・・製造所推奨仕様による・ 検査の項目及び数量：・※検査項目は協議の上決定し、数量は全数とする・図示 27.2 既存部分の撤去等 既存鉄骨の撤去範囲及び方法：・図示・ 既存鉄骨の処置：・図示・ 27.4 減衰材 減衰材の材質等：・図示・ 性能確認試験の項目：・図示・ 性能確認試験の数量：・図示・ 製品検査の項目等：・図示・ 27.6 減衰材の設置 材料の防錆処置：・図示・※製造所仕様による 材料の設置位置寸法の許容差：・図示・・製造所仕様による 別置の材料の種類、形状、寸法、数量等：・図示・・製造所仕様による 割裂補強筋の適用：・図示・ 減衰材設置後の仕上げ：・図示・ 検査の項目：・図示・ 27.8 仕上げ 27.9 検査	28.6 7-ドリル工法、バーリング工法 及び対メーリング工法	2.7. 制振改修工事 既存鉄骨の撤去範囲及び方法：・図示・ 既存鉄骨の処置：・図示・ 28.4 地業工事 試験杭の位置、本数、寸法：・図示・ ◎載荷試験 載荷試験：・水平試験・鉛直試験・ 試験杭の位置、本数、載荷荷重：・図示・ 試験方法：・図示・ 試験報告書の記載事項等：・図示・ ◎杭地業は「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」4章[地業工事]による。	●公4章 地業工事 公4.1 一般事項 公4.2 材料 公4.3 溶接 公4.4 セメント 公4.5 鋼管 公4.6 地盤 公4.7 地盤改良 公4.8 地盤構造 公4.9 地盤工法 公4.10 地盤構造工法 公4.11 地盤改良工法 公4.12 地盤構造改良工法 公4.13 地盤構造改良工法 公4.14 地盤構造改良工法 公4.15 地盤構造改良工法 公4.16 地盤構造改良工法 公4.17 地盤構造改良工法 公4.18 地盤構造改良工法 公4.19 地盤構造改良工法 公4.20 地盤構造改良工法 公4.21 地盤構造改良工法 公4.22 地盤構造改良工法 公4.23 地盤構造改良工法 公4.24 地盤構造改良工法 公4.25 地盤構造改良工法 公4.26 地盤構造改良工法 公4.27 地盤構造改良工法 公4.28 地盤構造改良工法 公4.29 地盤構造改良工法 公4.30 地盤構造改良工法 公4.31 地盤構造改良工法 公4.32 地盤構造改良工法 公4.33 地盤構造改良工法 公4.34 地盤構造改良工法 公4.35 地盤構造改良工法 公4.36 地盤構造改良工法 公4.37 地盤構造改良工法 公4.38 地盤構造改良工法 公4.39 地盤構造改良工法 公4.40 地盤構造改良工法 公4.41 地盤構造改良工法 公4.42 地盤構造改良工法 公4.43 地盤構造改良工法 公4.44 地盤構造改良工法 公4.45 地盤構造改良工法 公4.46 地盤構造改良工法 公4.47 地盤構造改良工法 公4.48 地盤構造改良工法 公4.49 地盤構造改良工法 公4.50 地盤構造改良工法 公4.51 地盤構造改良工法 公4.52 地盤構造改良工法 公4.53 地盤構造改良工法 公4.54 地盤構造改良工法 公4.55 地盤構造改良工法 公4.56 地盤構造改良工法 公4.57 地盤構造改良工法 公4.58 地盤構造改良工法 公4.59 地盤構造改良工法 公4.60 地盤構造改良工法 公4.61 地盤構造改良工法 公4.62 地盤構造改良工法 公4.63 地盤構造改良工法 公4.64 地盤構造改良工法 公4.65 地盤構造改良工法 公4.66 地盤構造改良工法 公4.67 地盤構造改良工法 公4.68 地盤構造改良工法 公4.69 地盤構造改良工法 公4.70 地盤構造改良工法 公4.71 地盤構造改良工法 公4.72 地盤構造改良工法 公4.73 地盤構造改良工法 公4.74 地盤構造改良工法 公4.75 地盤構造改良工法 公4.76 地盤構造改良工法 公4.77 地盤構造改良工法 公4.78 地盤構造改良工法 公4.79 地盤構造改良工法 公4.80 地盤構造改良工法 公4.81 地盤構造改良工法 公4.82 地盤構造改良工法 公4.83 地盤構造改良工法 公4.84 地盤構造改良工法 公4.85 地盤構造改良工法 公4.86 地盤構造改良工法 公4.87 地盤構造改良工法 公4.88 地盤構造改良工法 公4.89 地盤構造改良工法 公4.90 地盤構造改良工法 公4.91 地盤構造改良工法 公4.92 地盤構造改良工法 公4.93 地盤構造改良工法 公4.94 地盤構造改良工法 公4.95 地盤構造改良工法 公4.96 地盤構造改良工法 公4.97 地盤構造改良工法 公4.98 地盤構造改良工法 公4.99 地盤構造改良工法 公4.100 地盤構造改良工法 公4.101 地盤構造改良工法 公4.102 地盤構造改良工法 公4.103 地盤構造改良工法 公4.104 地盤構造改良工法 公4.105 地盤構造改良工法 公4.106 地盤構造改良工法 公4.107 地盤構造改良工法 公4.108 地盤構造改良工法 公4.109 地盤構造改良工法 公4.110 地盤構造改良工法 公4.111 地盤構造改良工法 公4.112 地盤構造改良工法 公4.113 地盤構造改良工法 公4.114 地盤構造改良工法 公4.115 地盤構造改良工法 公4.116 地盤構造改良工法 公4.117 地盤構造改良工法 公4.118 地盤構造改良工法 公4.119 地盤構造改良工法 公4.120 地盤構造改良工法 公4.121 地盤構造改良工法 公4.122 地盤構造改良工法 公4.123 地盤構造改良工法 公4.124 地盤構造改良工法 公4.125 地盤構造改良工法 公4.126 地盤構造改良工法 公4.127 地盤構造改良工法 公4.128 地盤構造改良工法 公4.129 地盤構造改良工法 公4.130 地盤構造改良工法 公4.131 地盤構造改良工法 公4.132 地盤構造改良工法 公4.133 地盤構造改良工法 公4.134 地盤構造改良工法 公4.135 地盤構造改良工法 公4.136 地盤構造改良工法 公4.137 地盤構造改良工法 公4.138 地盤構造改良工法 公4.139 地盤構造改良工法 公4.140 地盤構造改良工法 公4.141 地盤構造改良工法 公4.142 地盤構造改良工法 公4.143 地盤構造改良工法 公4.144 地盤構造改良工法 公4.145 地盤構造改良工法 公4.146 地盤構造改良工法 公4.147 地盤構造改良工法 公4.148 地盤構造改良工法 公4.149 地盤構造改良工法 公4.150 地盤構造改良工法 公4.151 地盤構造改良工法 公4.152 地盤構造改良工法 公4.153 地盤構造改良工法 公4.154 地盤構造改良工法 公4.155 地盤構造改良工法 公4.156 地盤構造改良工法 公4.157 地盤構造改良工法 公4.158 地盤構造改良工法 公4.159 地盤構造改良工法 公4.160 地盤構造改良工法 公4.161 地盤構造改良工法 公4.162 地盤構造改良工法 公4.163 地盤構造改良工法 公4.164 地盤構造改良工法 公4.165 地盤構造改良工法 公4.166 地盤構造改良工法 公4.167 地盤構造改良工法 公4.168 地盤構造改良工法 公4.169 地盤構造改良工法 公4.170 地盤構造改良工法 公4.171 地盤構造改良工法 公4.172 地盤構造改良工法 公4.173 地盤構造改良工法 公4.174 地盤構造改良工法 公4.175 地盤構造改良工法 公4.176 地盤構造改良工法 公4.177 地盤構造改良工法 公4.178 地盤構造改良工法 公4.179 地盤構造改良工法 公4.180 地盤構造改良工法 公4.181 地盤構造改良工法 公4.182 地盤構造改良工法 公4.183 地盤構造改良工法 公4.184 地盤構造改良工法 公4.185 地盤構造改良工法 公4.186 地盤構造改良工法 公4.187 地盤構造改良工法 公4.188 地盤構造改良工法 公4.189 地盤構造改良工法 公4.190 地盤構造改良工法 公4.191 地盤構造改良工法 公4.192 地盤構造改良工法 公4.193 地盤構造改良工法 公4.194 地盤構造改良工法 公4.195 地盤構造改良工法 公4.196 地盤構造改良工法 公4.197 地盤構造改良工法 公4.198 地盤構造改良工法 公4.199 地盤構造改良工法 公4.200 地盤構造改良工法 公4.201 地盤構造改良工法 公4.202 地盤構造改良工法 公4.203 地盤構造改良工法 公4.204 地盤構造改良工法 公4.205 地盤構造改良工法 公4.206 地盤構造改良工法 公4.207 地盤構造改良工法 公4.208 地盤構造改良工法 公4.209 地盤構造改良工法 公4.210 地盤構造改良工法 公4.211 地盤構造改良工法 公4.212 地盤構造改良工法 公4.213 地盤構造改良工法 公4.214 地盤構造改良工法 公4.215 地盤構造改良工法 公4.216 地盤構造改良工法 公4.217 地盤構造改良工法 公4.218 地盤構造改良工法 公4.219 地盤構造改良工法 公4.220 地盤構造改良工法 公4.221 地盤構造改良工法 公4.222 地盤構造改良工法 公4.223 地盤構造改良工法 公4.224 地盤構造改良工法 公4.225 地盤構造改良工法 公4.226 地盤構造改良工法 公4.227 地盤構造改良工		

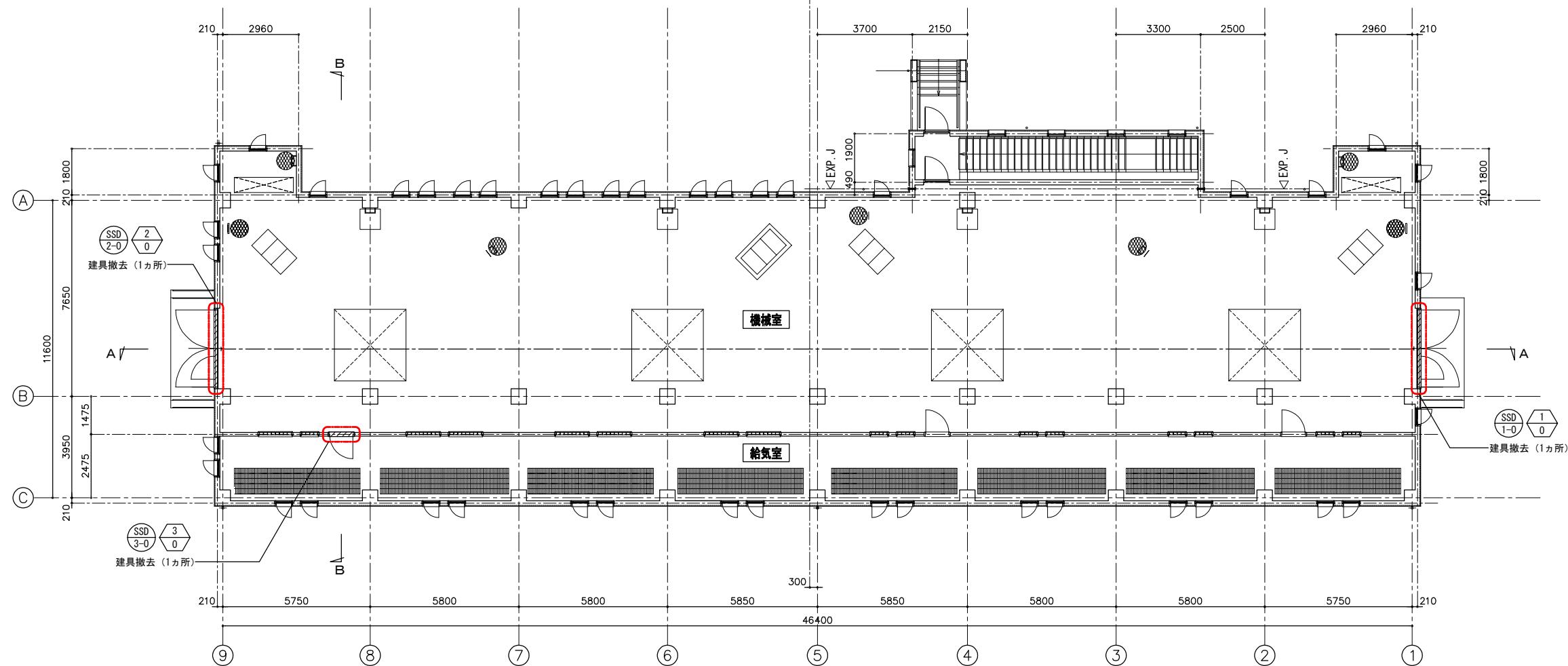
項目	特記事項	章	項目	特記事項	部位	メーカー・品名・品種・品番	備考		
8 8 耐震改修工事	公6.4 挖てコンクリート地盤 公6.5 床下防湿層	捨てコンクリートの厚さ：・図示・50mm・120mm・150mm・ 床下防湿層の適用：・適用しない・適用する・図示 床下防湿層の範囲：・図示・	9 9 環境配慮改修工事	5.3 路床	路床安定処理の適用：・適用しない・適用する 路床安定処理の方法：・添加材料による処理・図示・ 処理内容：【厚さ：・300mm・】 【目標CBR：・5以上・】 盛土の種別：・A種・B種・C種・D種 フィルター層の材料：・砂・図示・ 砂の品質：・75μmふるい通過量10%以下・ 路床安定処理用添加材料：・普通ポルトランドセメント・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメント・生石灰【・特号・1号】 ・消石灰【・特号・1号】 路床土のCBR試験：・行わない・行う【・乱した土・乱さない土】) 路床締固め度試験：・行う・行わない 車道部の路盤の厚さ：・図示・150mm・ 歩道部の路盤の厚さ：・図示・100mm・ 路盤の材料：※碎石【※クラッシャン・粒度調整碎石】 ※再生材【※クラッシャン・※クラッシャン鉄鋼スラグ・粒度調整碎石】 舗装の厚さ(mm)：車道部【・50mm・】歩道部【・30mm・】 舗装の平坦性：※著しい不陸のない程度・水の滞留がない平滑性 アスファルトの種類(車道部)：・図示・※ボーリマ-改質アスファルトI型 ・ボーリマ-改質アスファルトII型・ アスファルトの種類(歩道部)：・図示・※ストレートアスファルト アスファルトの抽出試験：・行う・行わない	指定メーター等リスト			
9 9 環境配慮改修工事	①一般事項 1.3 石綿含有吹付け材の除去 1.4 石綿含有保湿材等の除去 1.5 石綿含有成形板等の除去 ⑥石綿含有仕上塗材の除去	1. 石綿含有建材の除去工事 石綿粉じん濃度測定：・行う(○行わない) 石綿粉じん濃度測定箇所：図示 石綿粉じん測定方法：・空気中の繊維状粒子測定方法(JIS K 3850-1)・ 除去工法：※標準仕様書による・図示・ 石綿含有吹付け材の飛散防止措置：※湿润化・固化化 石綿含有吹付け材等の処分：・埋立処分・無害化処理 石綿含有保湿材等の除去：・破壊除去・原形手ばらし除去・図示 石綿含有せっこうボード以外の石綿含有成形板の処分：・埋立処分・中間処理 養生シートによる作業場の養生：・行う・協議による・行わない 除去方法：○集じん装置併用工法【・手工具ケレン・高圧水洗(○ディスクグラインダーケレン)】 ・剥離剤併用工法【・手工具ケレン・高圧水洗・超音波ケレン】 ・超音波ケレン工法(HAPAフィルタ付掃除機併用)	5.4 路盤						
2.2 材料	2. 外断熱改修工事 断熱材の種類及び厚さ：・図示・ 外装材の種類及び防火性能：・図示・ 既存外壁仕上げ材の撤去：・図示・全面撤去・部分撤去・ 既存外壁下地面の清掃：・図示・ 既存外壁下地欠損部の改修方法：・図示・ 風圧力に応じた工法：・製造所仕様による・図示・ 下地調整：・製造所仕様による・図示・ 断熱材の施工方法：・製造所仕様による・図示・ 外装材の施工：・製造所仕様による・図示・ 外装材の取付：・あと施工アンド接着剤・図示・ 通気層：・有り(厚み：mm)・無し	5.5 鋼装の構成及び仕上り							
3.2 断熱材打込み工法	3. 断熱・防露改修工事 種類	種別	厚さ(mm)	5.9 試験					
	・ビーズ法ボリスチレンフォーム	・	・25・						
	・押出法ボリスチレンフォーム	・3種：土間コンクリート下端	・25・50						
	・硬質ケレンフォーム	・A種・	・						
	・フェーム	・	・						
3.3 断熱材現場発泡工法	接着剤のねじめアルティド放散量：※F☆☆☆☆・F☆☆☆								
	材料：吹付け硬質ケレンフォーム・								
	種類：・A種1・								
	難燃材：・1級・2級・3級								
3.4 断熱材後張り工法	吹付け厚さ(mm)・図示・25・30・20								
	種類	種別	厚さ(mm)						
	・ビーズ法ボリスチレンフォーム	・	・25・						
	・押出法ボリスチレンフォーム	・3種：土間コンクリート下端	・25・50						
	・硬質ケレンフォーム	・A種・	・						
	・フェーム	・	・						
	接着剤のねじめアルティド放散量：※F☆☆☆☆・F☆☆☆								
4.2 材料	4. 屋上緑化改修工事 芝の種類：・コライン・ノバ・ 地被類の樹種／芽立数／コンテナ径／コンテナ数：・図示・ 縁材、舗装材、水抜き管、マルチング材等：・図示・ 建設省告示第1458号に対応した工法：・								
4.3 工法	灌水装置の設置／種類：・設置しない・設置する【種類：・図示・】 既存保護層等の撤去：・撤去しない・撤去する 新植芝、地被類の枯死期間：・1年・半年・								
4.4 新植した***の枯死償	5. 透水性アスファルト舗装改修工事 既存舗装の撤去：・撤去しない・撤去する【範囲等：・図示・改修部分全面】 既存舗装の再利用：・再利用しない ・再利用する【範囲等：・図示・改修部分全面】								
5.2 既存舗装の撤去及び 再利用	凍上抑制層の適用：・適用しない・適用する 厚さ：・車道部 mm・歩道部 mm 透水性舗装のフィルター層の適用：・適用しない・適用する 厚さ：・車道部【・150mm・】歩道部【・50mm・】								
5.3 路床									

令和7年度 入善町公共下水道事業			
工事名	入善浄化センター建築改修工事		
工事箇所	入善町東五十里地内		
図称	建築改修工事特記仕様書(8)	縮尺	1/-
設計年月日	令和 年 月 日	番号	A-10
課長	係長	会議	審査
設計者			
入善町役場			

改修前



平成14年度工事 (OD第1系-2) 平成11年度工事 (OD第1系-1)



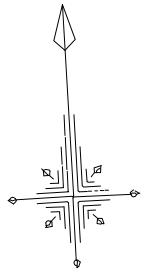
<凡例>

- 改修対象箇所を示す
- 撤去範囲を示す
- 撤去建具符号を示す
- 部分詳細図番号を示す

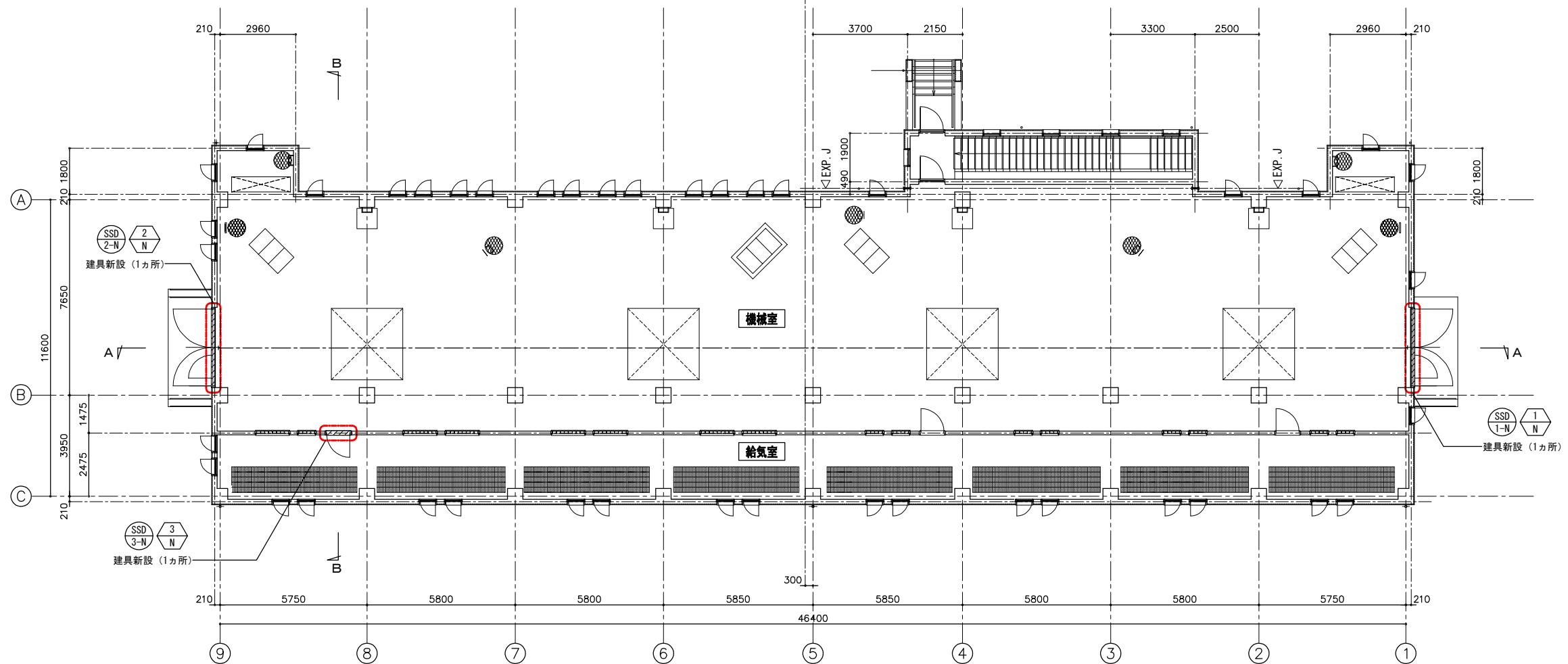
1階平面図 S=1/100

令和7年度 入善町公共下水道事業			
工事名	入善浄化センター建築改修工事		
工事箇所	入善町東五十里地内		
図称	平面図(改修前)	縮尺	1/100
設計年月日	令和7年1月1日	番号	A-11
課長	係長	合議	審査 設計者
入善町役場			

改修後



平成14年度工事 (OD第1系-2) 平成11年度工事 (OD第1系-1)



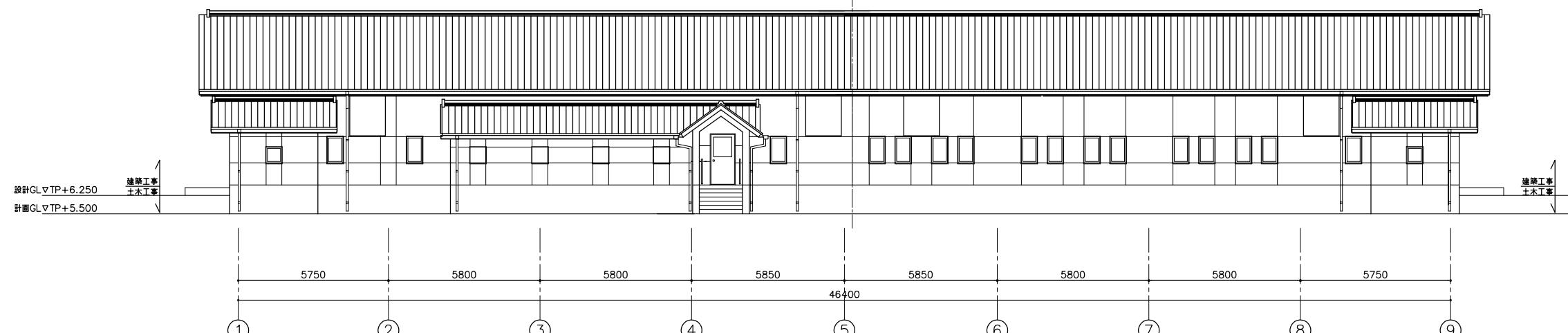
1階平面図 S=1/100

- <凡例>
- 改修対象箇所を示す
 - 撤去範囲を示す
 - 撤去建具符号を示す
 - 部分詳細図番号を示す

令和7年度 入善町公共下水道事業			
工事名	入善浄化センター建築改修工事		
工事箇所	入善町東五十里地内		
図称	平面図(改修後)	縮尺	1/100
設計年月日	令和年月日	番号	A-12
課長	係長	会議	審査 設計者
入善町役場			

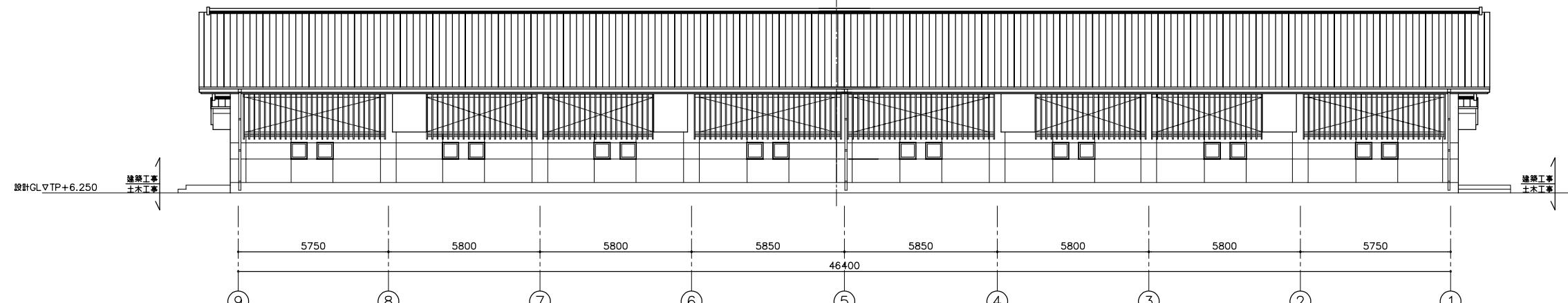
改修前

平成11年度工事 (OD第1系-1) 平成14年度工事 (OD第1系-2)

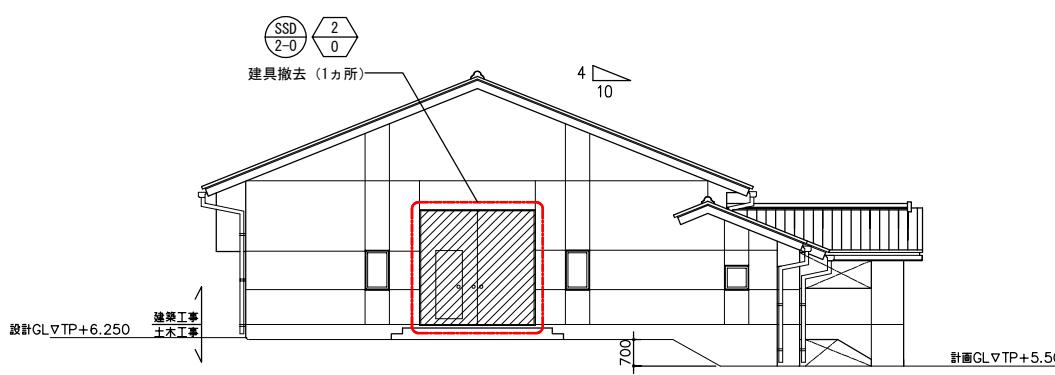


北側立面図 S=1/100

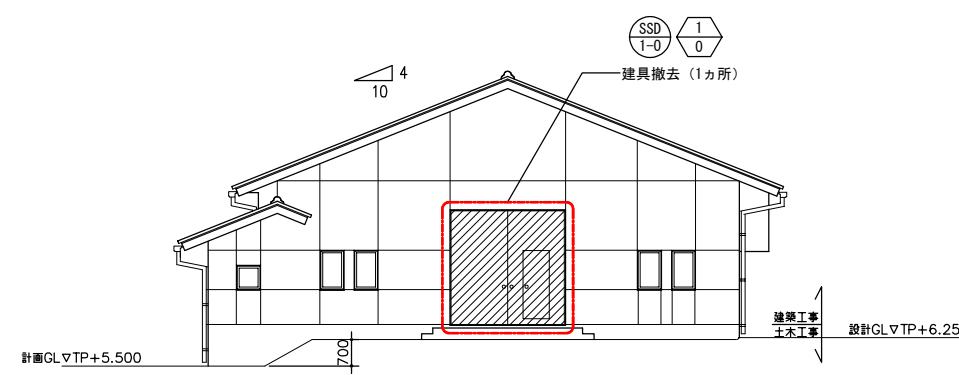
平成14年度工事 (OD第1系-2) 平成11年度工事 (OD第1系-1)



南側立面図 S=1/100



東側立面図 S=1/100



西側立面図 S=1/100

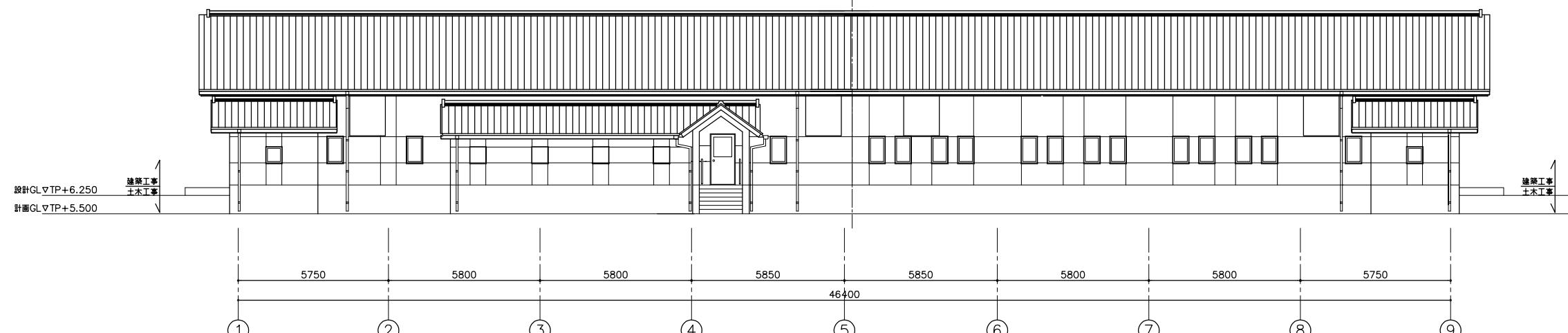
<凡例>

- 改修対象箇所を示す
- 撤去範囲を示す
- 撤去建具符号を示す
- 部分詳細図番号を示す

令和7年度 入善町公共下水道事業					
工事名	入善浄化センター建築改修工事				
工事箇所	入善町東五十里地内				
図称	立面図(改修前)			縮尺	1/100
設計年月日	令和7年 1月 1日	番号	A-13	審査	設計者
課長	係長	合議			
入善町役場					

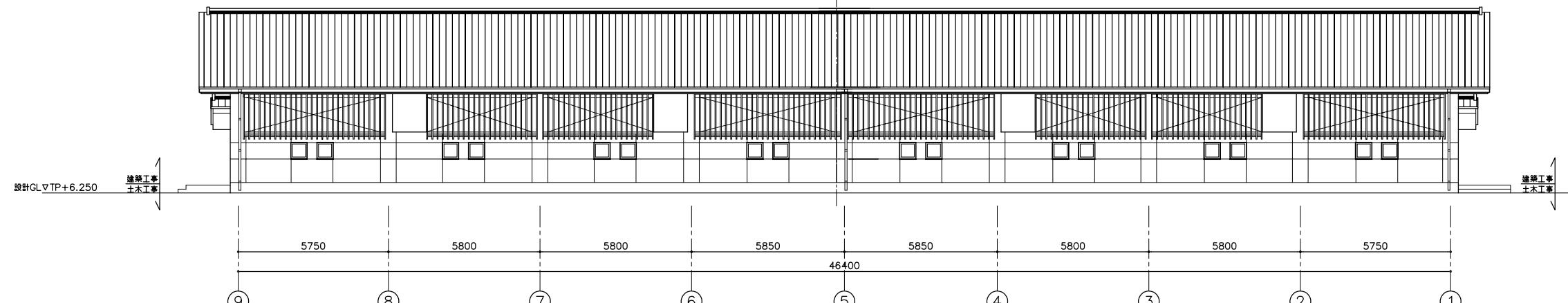
改修後

平成11年度工事 (OD第1系-1) 平成14年度工事 (OD第1系-2)

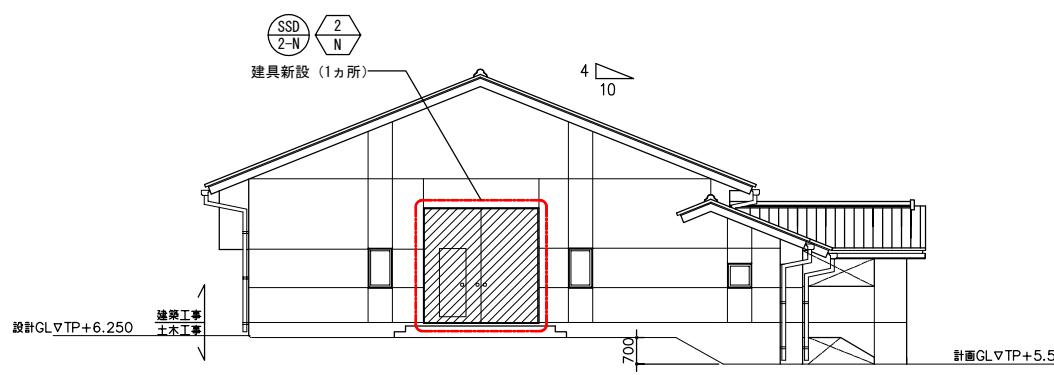


北側立面図 S=1/100

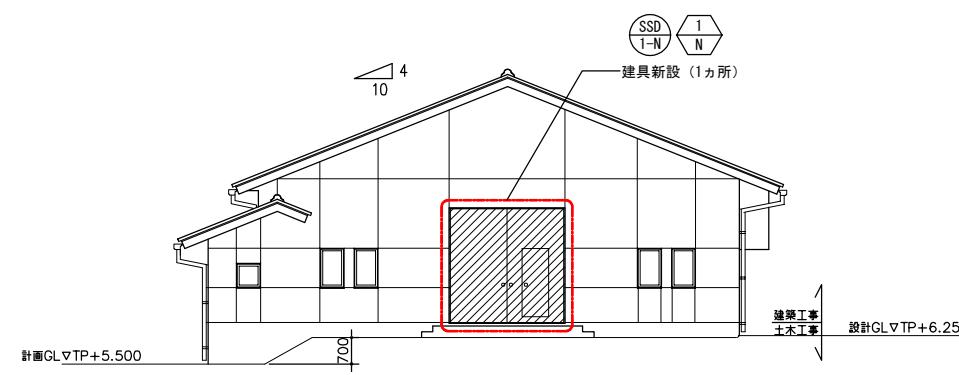
平成14年度工事 (OD第1系-2) 平成11年度工事 (OD第1系-1)



南側立面図 S=1/100



東側立面図 S=1/100

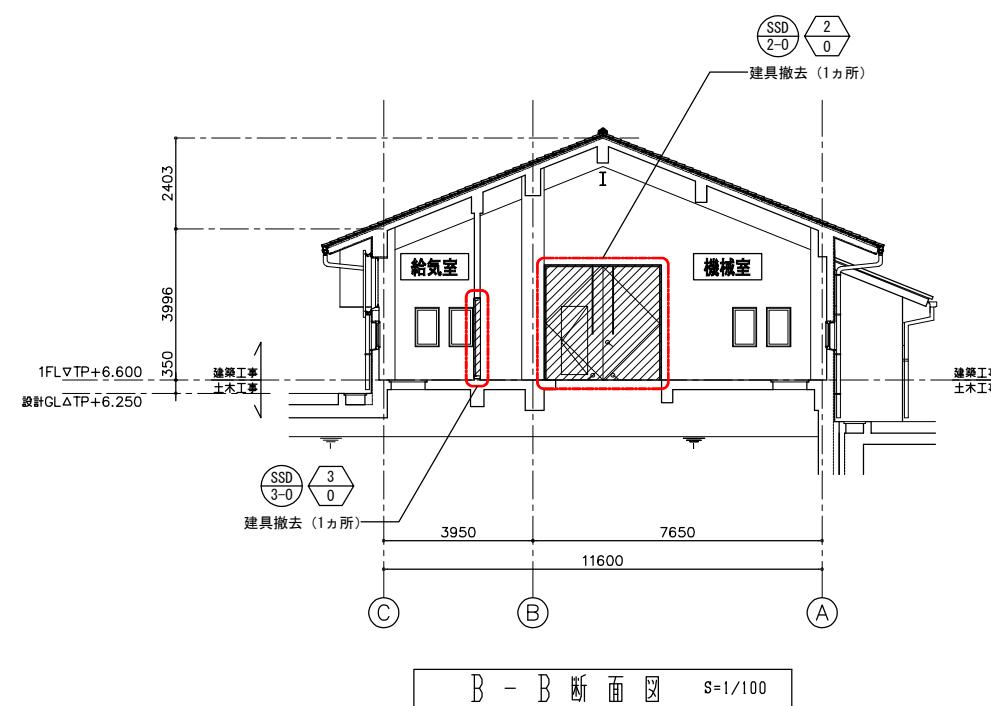
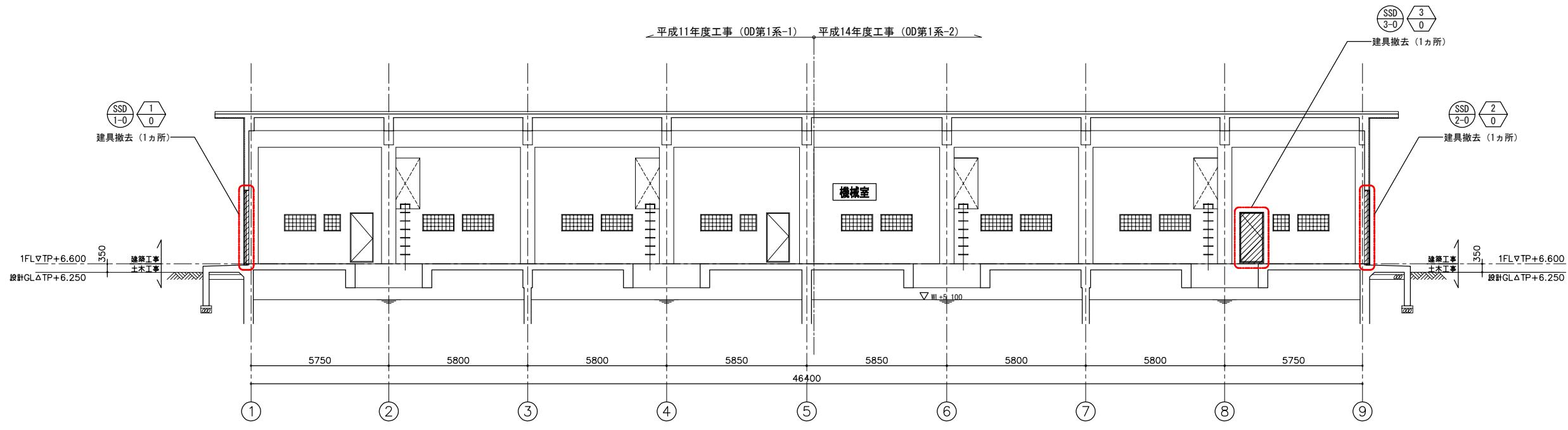


西側立面図 S=1/100

- <凡例>
- 改修対象箇所を示す
 - 撤去範囲を示す
 - 撤去建具符号を示す
 - 部分詳細図番号を示す

令和7年度 入善町公共下水道事業					
工事名	入善浄化センター建築改修工事				
工事箇所	入善町東五十里地内				
図称	立面図(改修後)	縮尺	1/100		
設計年月日	令和7年1月1日	番号	A-14		
課長	係長	合議	審査	設計者	
入善町役場					

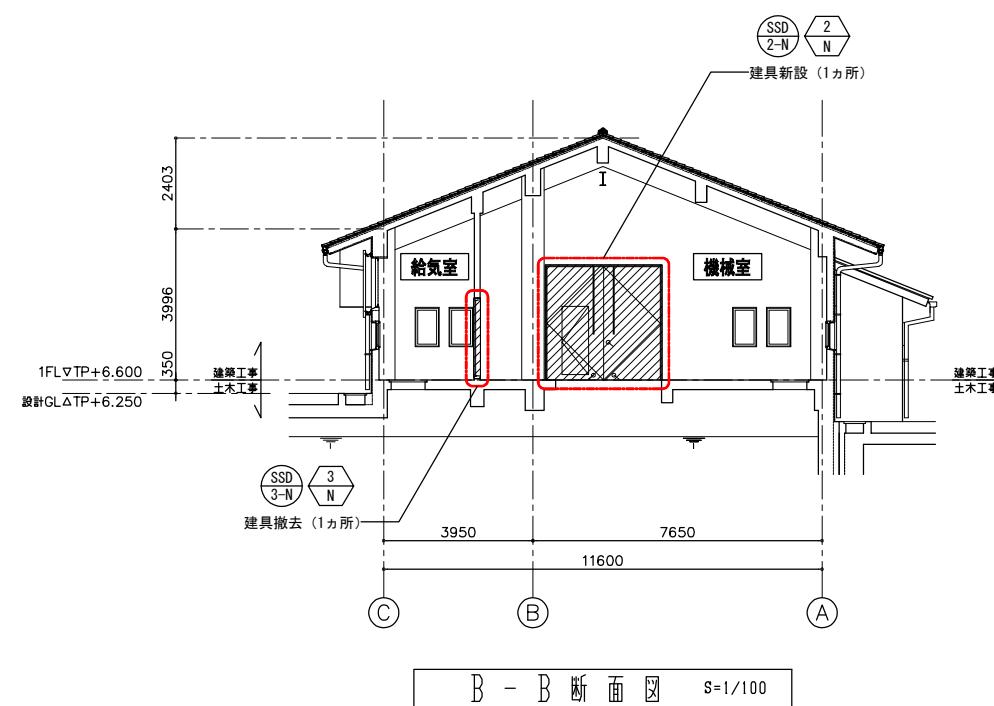
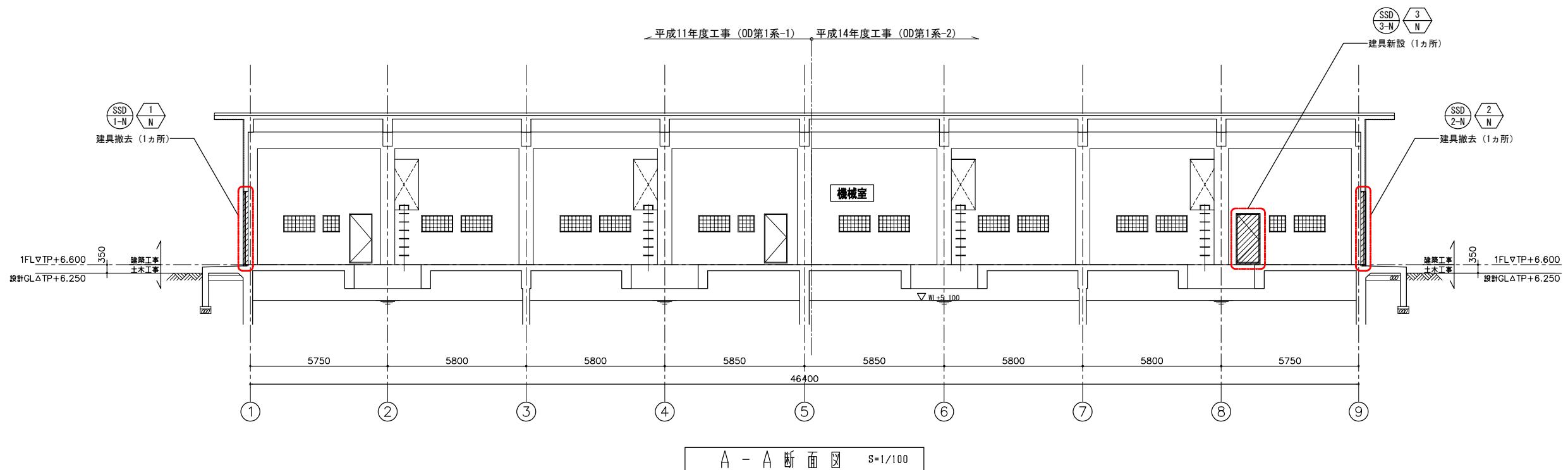
改修前



- <凡例>
- 改修対象箇所を示す
 - ▨ 撤去範囲を示す
 - 撤去建具符号を示す
 - ◇ 部分詳細図番号を示す

令和7年度 入善町公共下水道事業					
工事名	入善浄化センター建築改修工事				
工事箇所	入善町東五十里地内				
図称	断面図(改修前)	縮尺	1/100		
設計年月日	令和7年 月 日	番号	A-15		
課長	係長	合議	審査	設計者	
入善町役場					

改修後



<凡例>

- 改修対象箇所を示す
- ▨ 撤去範囲を示す
- 撤去建具符号を示す
- △ 部分詳細図番号を示す

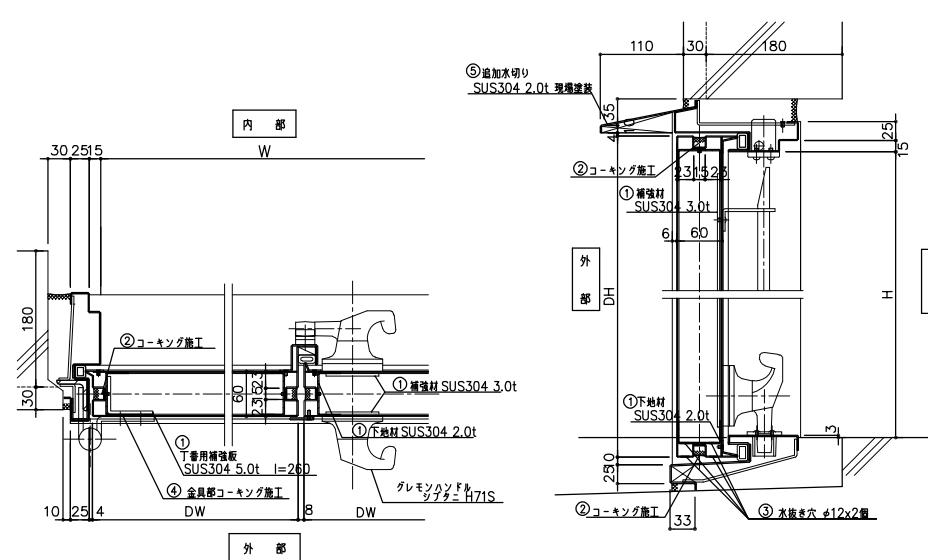
令和7年度 入善町公共下水道事業					
工事名	入善浄化センター建築改修工事				
工事箇所	入善町東五十里地内				
図称	断面図(改修前)	縮尺	1/100		
設計年月日	令和7年 月 日	番号	A-16		
課長	係長	合議	審査	設計者	
入善町役場					

建具表：撤去（改修前） S=1/50

符号・名称・個数	ステンレス製両開き簡易気密ドア	撤去:1	ステンレス製両開き簡易気密ドア	撤去:1	ステンレス製片開き気密ドア	撤去:1
場所	1階 機械室 フッソ樹脂焼付塗装	60	1階 機械室 フッソ樹脂焼付塗装	60	1階 給気室 フッソ樹脂焼付塗装	40
建具 仕上（枠共）	見込（ランマ） 硝子（ランマ） ガラリ・ガラス					
建具枠	見込取合 倉摺	140 SAT-3	ステンレスSUS304 t=2.0	140 SAT-3	ステンレスSUS304 t=2.0	150 AT-5
枠記号 倉摺（水切）記号	大型丁番（5管）3枚、大型戸当たり、あおり止め、内蔵型上落し シリンドー本締り錠、DC		大型丁番（5管）3枚、大型戸当たり、あおり止め、内蔵型上落し シリンドー本締り錠、DC		一般丁番（150、3枚）、両面締りハンドル、シリンドー本締り錠 DC（ストップ無し）	
建具金物	SAT		SAT		AT	
その他						
形状・寸法						

SSD-1-N、SSD-2-N詳細図 S=1/5

注意*表面材を 四辺折り曲げを行う事により、表面に板歪みが発生することがある。

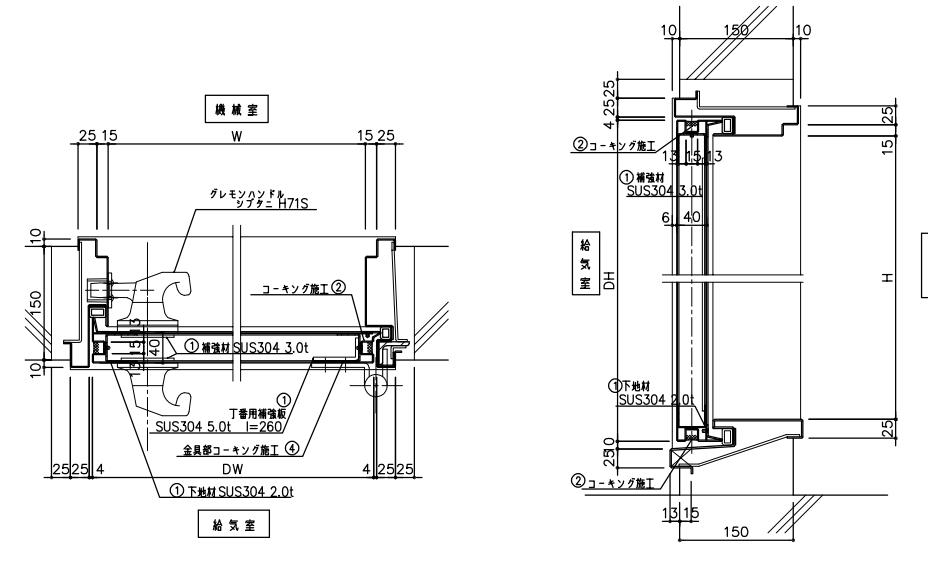


建具表：新設（改修後） S=1/50

符号・名称・個数	ステンレス製両開き簡易気密ドア	新設:1	ステンレス製両開き簡易気密ドア	新設:1	銅製片開きドア（防火設備、気密・遮音（AT-G））	新設:1
場所	1階 機械室		1階 機械室		1階 給気室	
建具 仕上（枠共）	フラッシュドア（SUS316+フッソ樹脂塗装（中骨はSUS304））		フラッシュドア（SUS316+フッソ樹脂塗装（中骨はSUS304））		フラッシュドア（SUS316+フッソ樹脂塗装（中骨はSUS304））	
建具 見込（ランマ）	60		60		40	
建具 硝子（ランマ）						
建具枠	見込取合 倉摺	170 SAT-3	ステンレスSUS316 t=2.0	170 SAT-3	ステンレスSUS316 t=2.0	170 AT-5
枠記号 倉摺（水切）記号	SAT		SAT		AT	
建具金物	大型丁番（5管）4枚、大型戸当たり、あおり止め、大型上落し 両面締りハンドル、片面締りハンドル		大型丁番（5管）4枚、大型戸当たり、あおり止め、大型上落し 両面締りハンドル、片面締りハンドル		一般丁番（150、3枚）、両面締りハンドル、シリンドー本締り錠 DC（ストップ無し）	
その他	SAT		SAT		AT	
形状・寸法						

SSD-3-N詳細図 S=1/5

注意*表面材を 四辺折り曲げを行う事により、表面に板歪みが発生することがある。



- 共通事項
- 特記なき限り外部はシリンドラ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。
但し、押板、押棒の場合は、シリンドラー本締り錠とする。
 - パイプベース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンドラ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。（内部サムターン付）
 - 便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。
 - AH、FHを除きDCの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め（防火戸は除く）をつける。
壁仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。）
 - 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。
 - アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から1,500以内とする。
 - 大型、気密銅製建具はシリンドラ本締り錠付きとする。

建 具 略 号	種 別	戸	窓	ガラリ	オーバーハングドア	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
アルミニウム製	AD	AW	AG	AOD				AS	aW
鋼 製	SD	SW	SG	SOD				SS	
鋼製軽量	LD							LS	
ステンレス製	SSD	SSW	SSG					SSS	
木 製	WD	WW	WG		P	H			
ガラス	F 型板ガラス				D C ドアクローザー				
ラス	P フロート板ガラス				A H オートヒンジ				
略号	N 網入型板ガラス				F H フロアヒンジ				
	N P 網入みがき板ガラス				P H ピボットヒンジ				

令和7年度 入善町公共下水道事業

工事名 入善浄化センター建築改修工事

工事箇所 入善町東五十里地内

図 称 建具表 緯 尺 1/50

設計年月日 令和 年 月 日 番 号 A-17

課 長 係 長 合 議 審 査 設計者

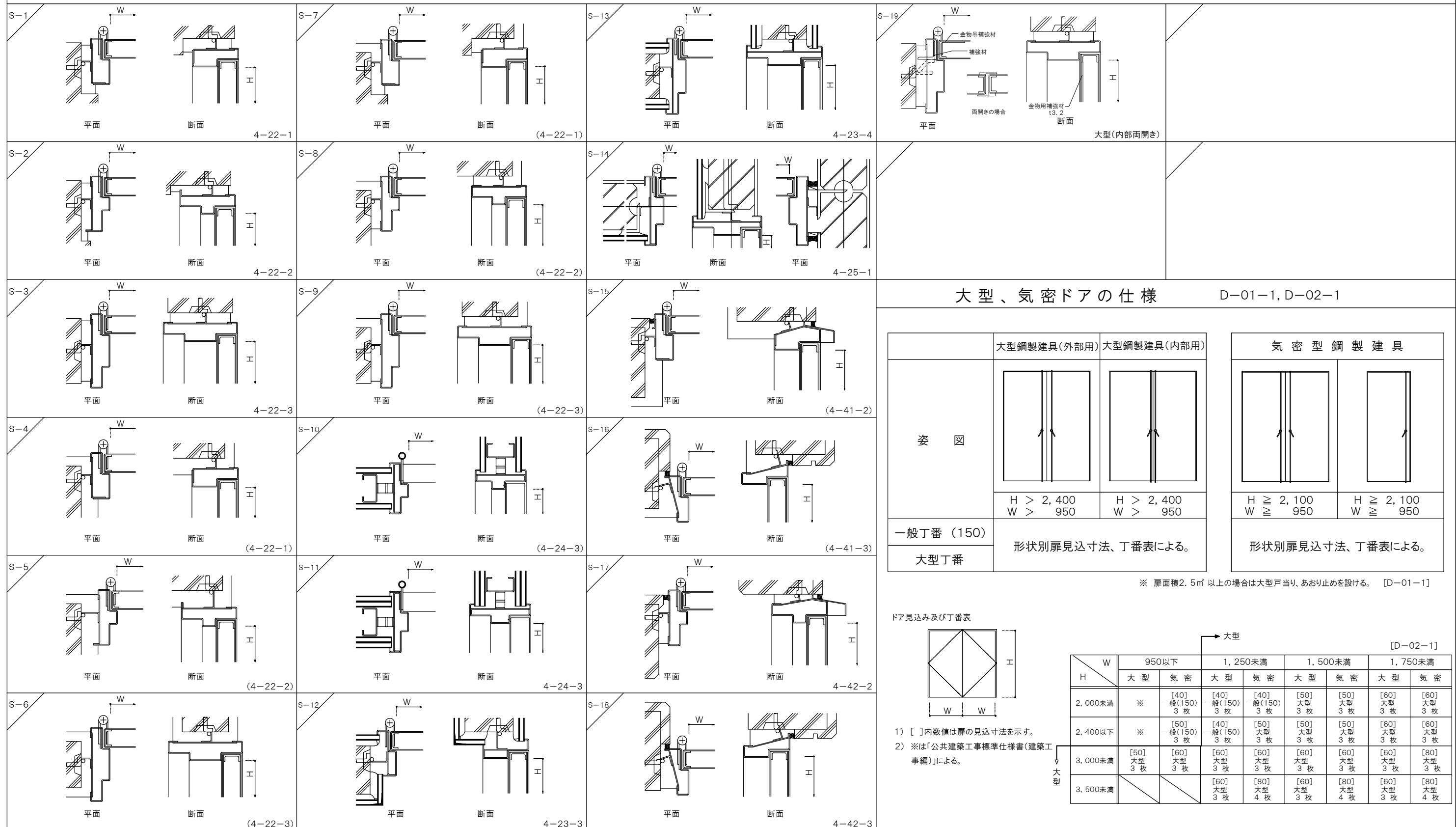
入 善 町 役 場

建具枠回り詳細及び記号

(鋼製建具)

鋼製建具(一般)

(—)は標準図番号に準ずる



- 共通事項
- 特記なき限り外部はシリンダ箱錠(内部サムターン)とし内部は本締り付きモノロックとする。但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。
 - バイパスベース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠(特記なき限り同一キー)とする。(内部サムターン付)
 - 便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。
 - AH、FHを除きDCの有無にかかわらず出入口には戸当り、あり止め(防火戸は除く)をつける。壁仕上げボード類等の場合には床付とする。(但し、通常に支障のあるものは除く。)
 - 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。
 - アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から1,500以内とする。
 - 大型、気密型鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。

- 特記なき限り内部建具ガラリはI型とする。
- 特記なき限り鋼製戸の見込みは40mmとする。
- 防火戸の位置は建具配置図による。
- 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行なわないものとする。
- 階段室の施錠を必要としない箇所は空錠とする。
- 特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。
- 大型建具の補強材はアングル(L-50×50×6)の通し物とする。

建 具 略 号	種 別	戸	窓	ガラリ	オーバー ドア	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
アルミニウム製	AD	AW	AG	AOD			AS	aW	
鋼製	SD	SW	SG	SOD			SS		
鋼製軽量	LD						LS		
ステンレス製	SSD	SSW	SSG				SSS		
木製	WD	WW	WG		P	H			
ガラス	F型板ガラス				D C ドアクローザー				
	P フロート板ガラス				A H オートンジ				
	N 網入型板ガラス				F H フロアヒンジ				
略号	N P 網入みがき板ガラス				P H ピボットヒンジ				

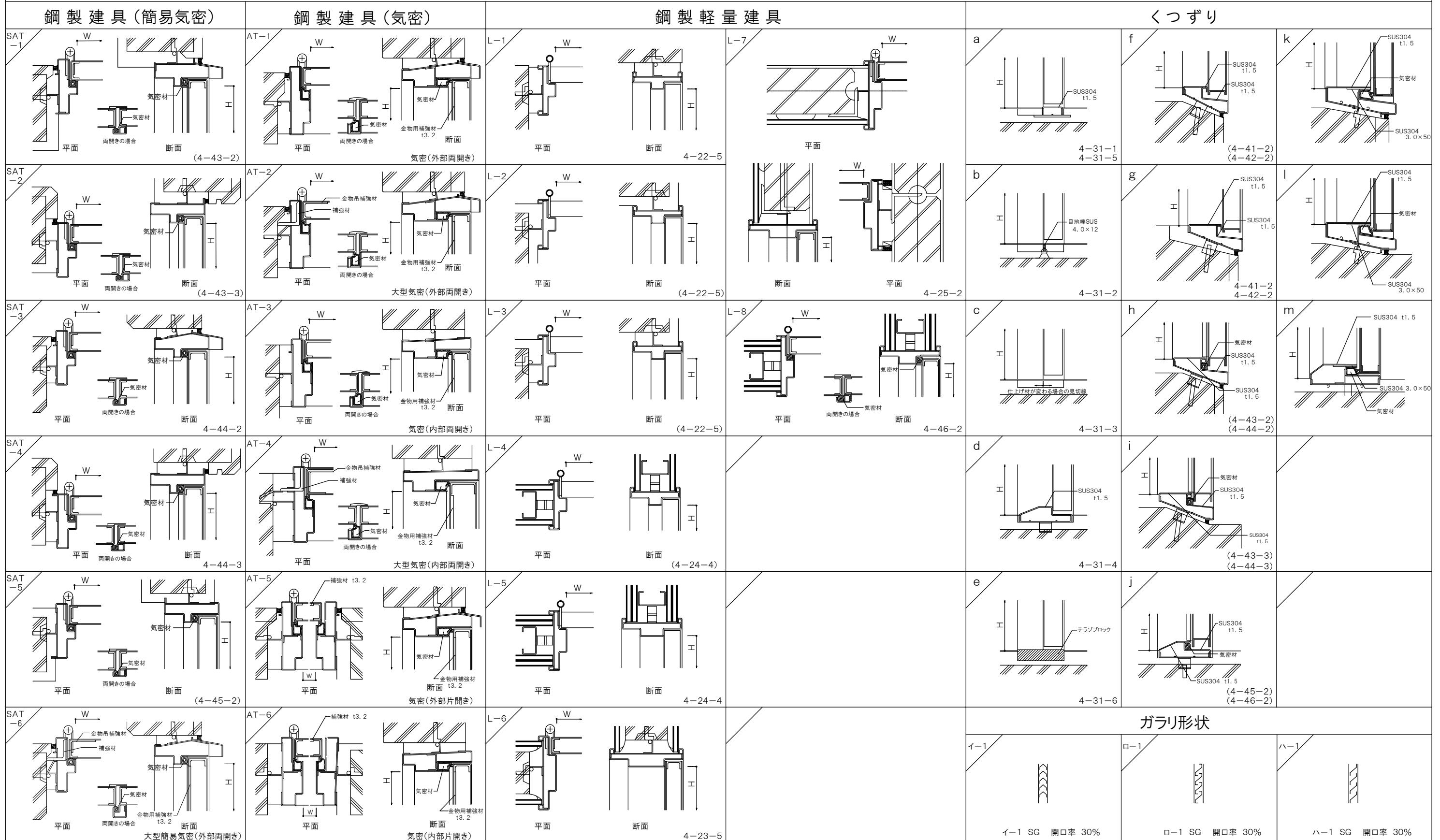
令和7年度 入善町公共下水道事業									
工事名		入善浄化センター建築改修工事							
工事箇所		入善町東五十里地内							
図 称		建具枠回り詳細及び記号(鋼製) 締 尺 1/-							
設計年月日	令和年月日	番号	A-18	課長	係長	合議	審査	設計者	

入善町役場

建具枠回り詳細及び記号

(鋼製・鋼製軽量建具)

(- -)は標準図番号に準ずる



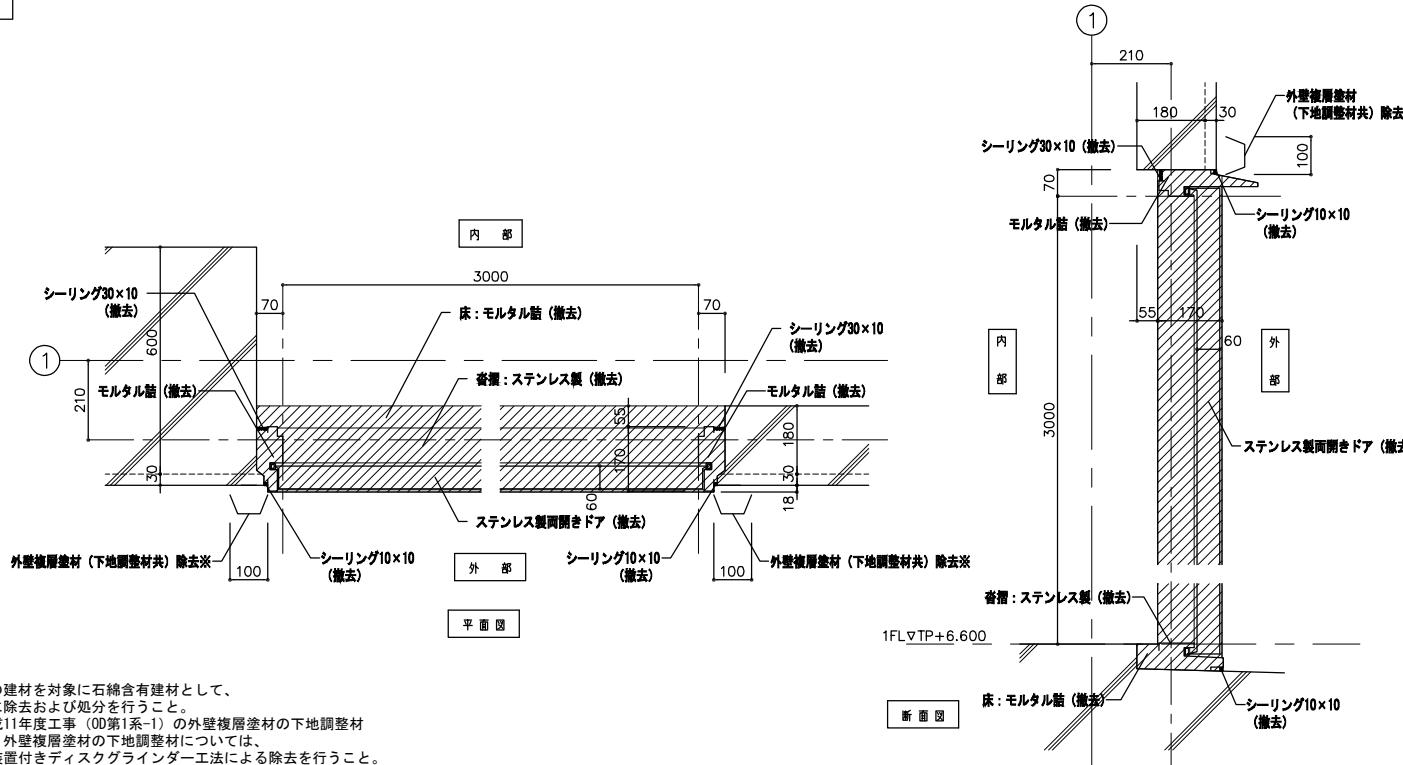
- 共通事項
- 特記なき限り外部はシリンドラ箱錠(内部サムターン)とし内部は本締付きモノロックとする。但し、押板、押棒の場合は、シリンドラ本締り錠とする。
 - パイプスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンドラ本締り錠(特記なき限り同一キー)とする。(内部サムターン付)
 - 便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。
 - AH、FHを除きDCの有無にかかわらず出入り口には戸当り、あおり止め(防火戸は除く)をつける。壁仕上げボード類等の場合は床付とする。(但し、通行に支障のあるものは除く。)
 - 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。
 - アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から1,500以内とする。
 - 大型、気密鋼製建具はシリンドラ本締り錠付きとする。
- 特記なき限り内部建具ガラリはI型とする。
 - 特記なき限り鋼製戸の見込みは40mmとする。
 - 特記なき限り鋼製戸の位置は建具配置図による。
 - 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行わないものとする。
 - 階段室の施錠を必要としない箇所は空錠とする。
 - 特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付とする。
 - 特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。
 - 大型建具の補強材はアングル(L-50×50×6)の通し物とする。

建 具 略 号	種 別	戸 窓	ガラリ	オーバーパー	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
アルミニウム製	AD	AW	AG	AOD			AS	aW
鋼 製	SD	SW	SG	SOD			SS	
鋼製軽量	LD						LS	
ステンレス製	SSD	SSW	SSG				SSS	
木 製	WD	WW	WG	P	H			
F ラ ス	F 型板ガラス			D C ドアクローザー				
	P フロート板ガラス			A H オートヒンジ				
	N 網入型板ガラス			F H フロアヒンジ				
略 号	N P 網込みがき板ガラス			P H ピボットヒンジ				

令和7年度 入善町公共下水道事業								
工事名	入善浄化センター建築改修工事							
工事箇所	入善町東五十里地内							
図 称	建具枠回り詳細及び記号(鋼製・鋼製軽量) 総 尺 1/-							
設計年月日	令和 年 月 日	番 号	A-19	課 長	係 長	合 議	審 査	設 計 者

入 善 町 役 場

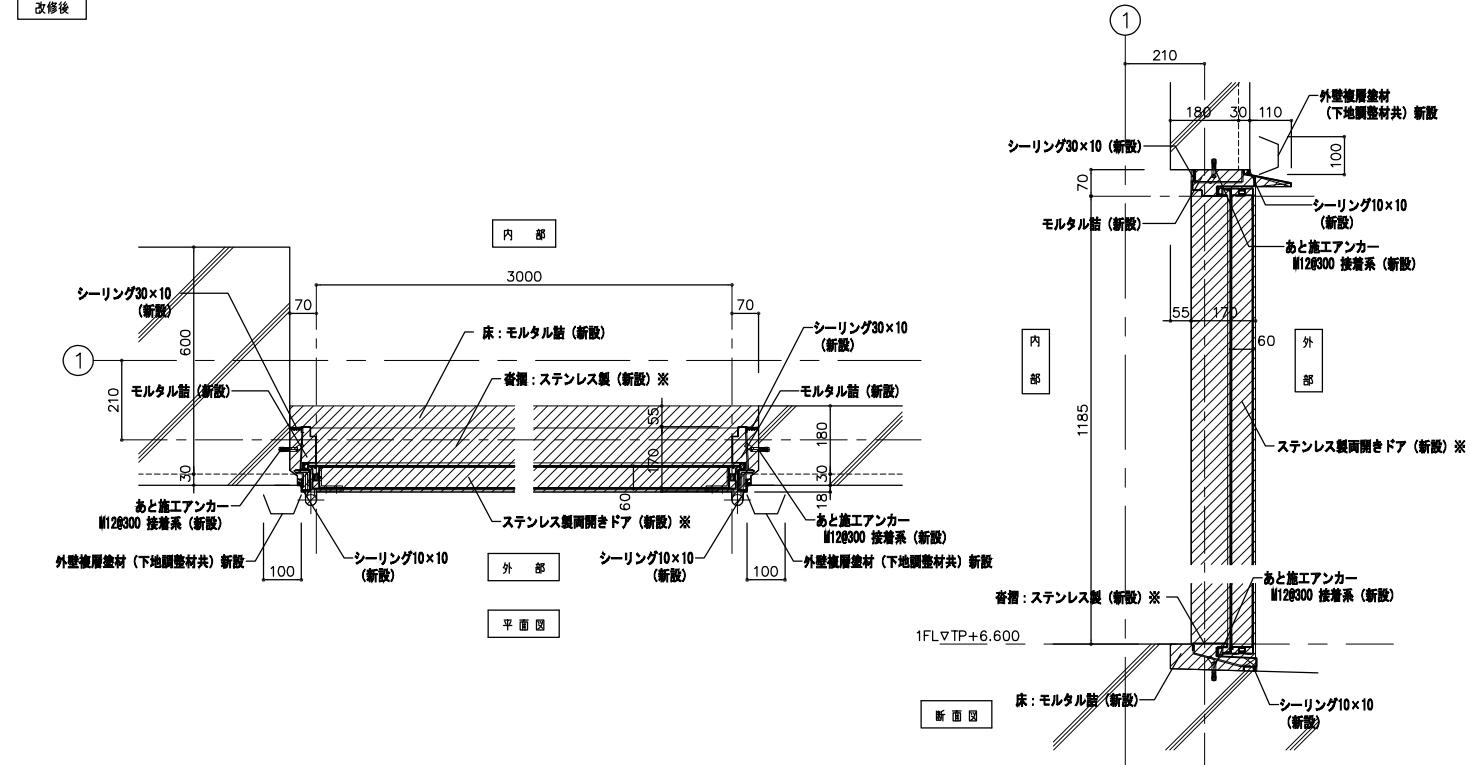
七



※以下の建材を対象に石綿含有建材として、
適切に除去および処分を行うこと。

- ・平成11年度工事（00第1系-1）の外壁複層塗材の下地調整材
なお、外壁複層塗材の下地調整材については、
集塵装置付きディスクグラインダー工法による除去を行うこと。
また、労働基準監督署と事前協議を行うこと。

注記  印は仕上撤去部を示す

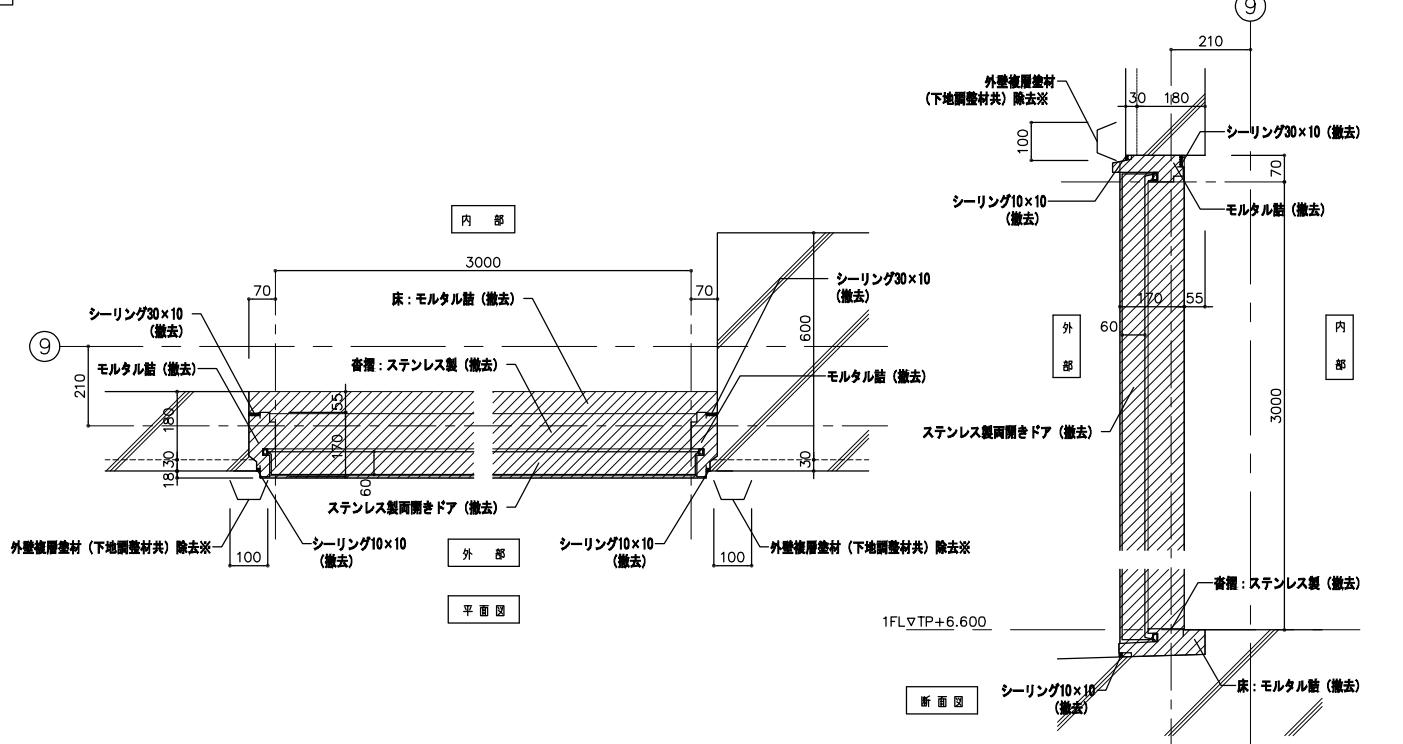


9通り ステンレス製両開きドア廻り詳細図（改修前）

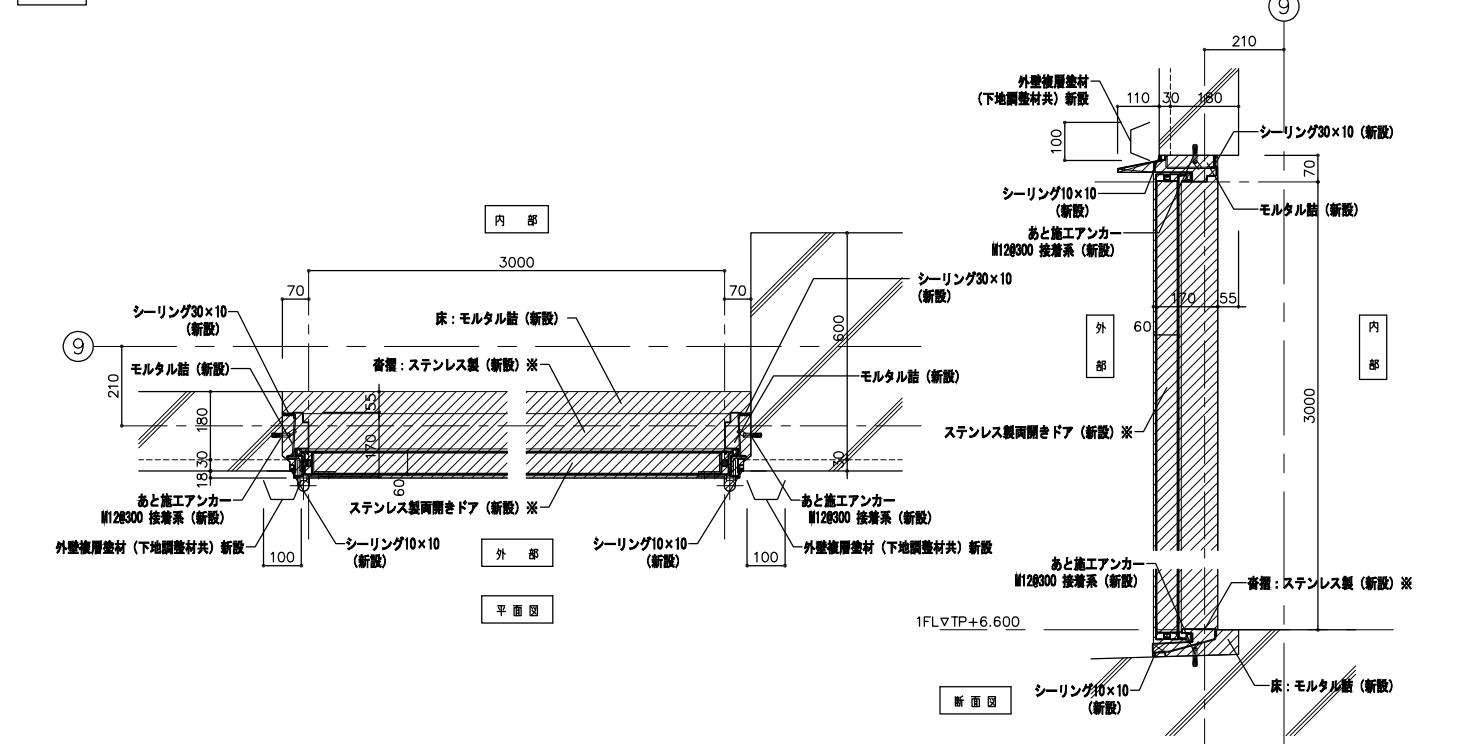
 印は仕上新設部を示す。 収まり・大きさ等は、現場にて再度計測の上チェックの事。

※印はメーカー工事と

改修前



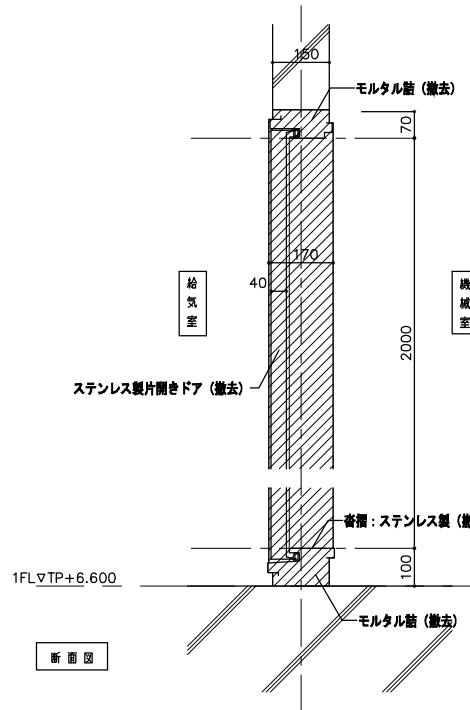
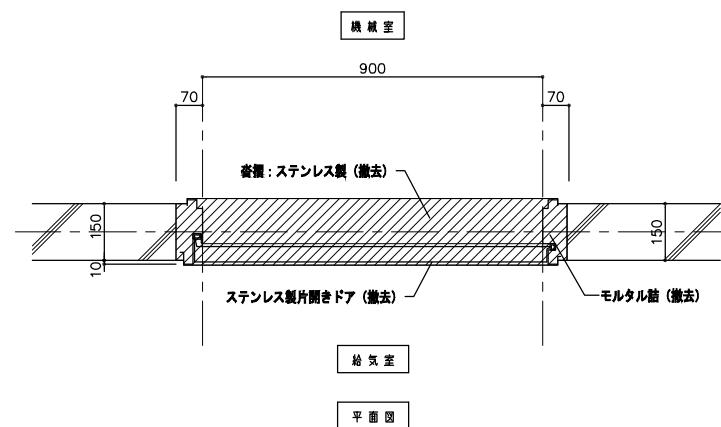
注記 印は仕上撤去部を示す



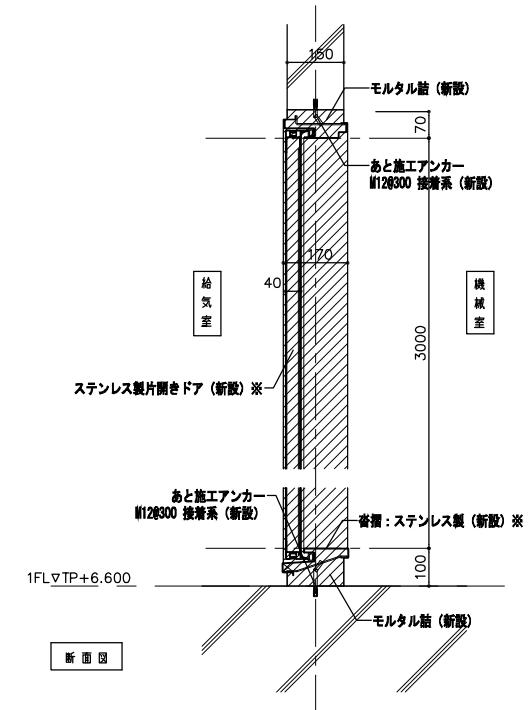
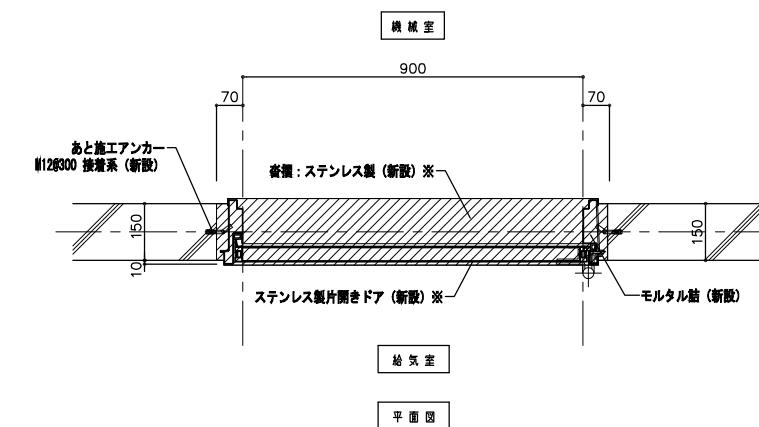
注記	 印は仕上撤去部を示す。		注記	 印は仕上新設部を示す。	收まり・大きさ等は、現場にて再度計測の上チェックの事。
				※印はメーカー工事とする。	

令和7年度 入善町公共下水道事業				
工事名	入善浄化センター建築改修工事			
工事箇所	入 善 町 東 五 十 里 地 内			
図 称	改修詳細図(1)		縮 尺	1/10
設計年月日	令 和 年 月 日	番 号	A-20	
課 長	係 長	合 議	審 查	設計者

改修前



改修後



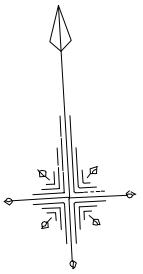
注記 印は仕上撤去部を示す。

注記 印は仕上新設部を示す。

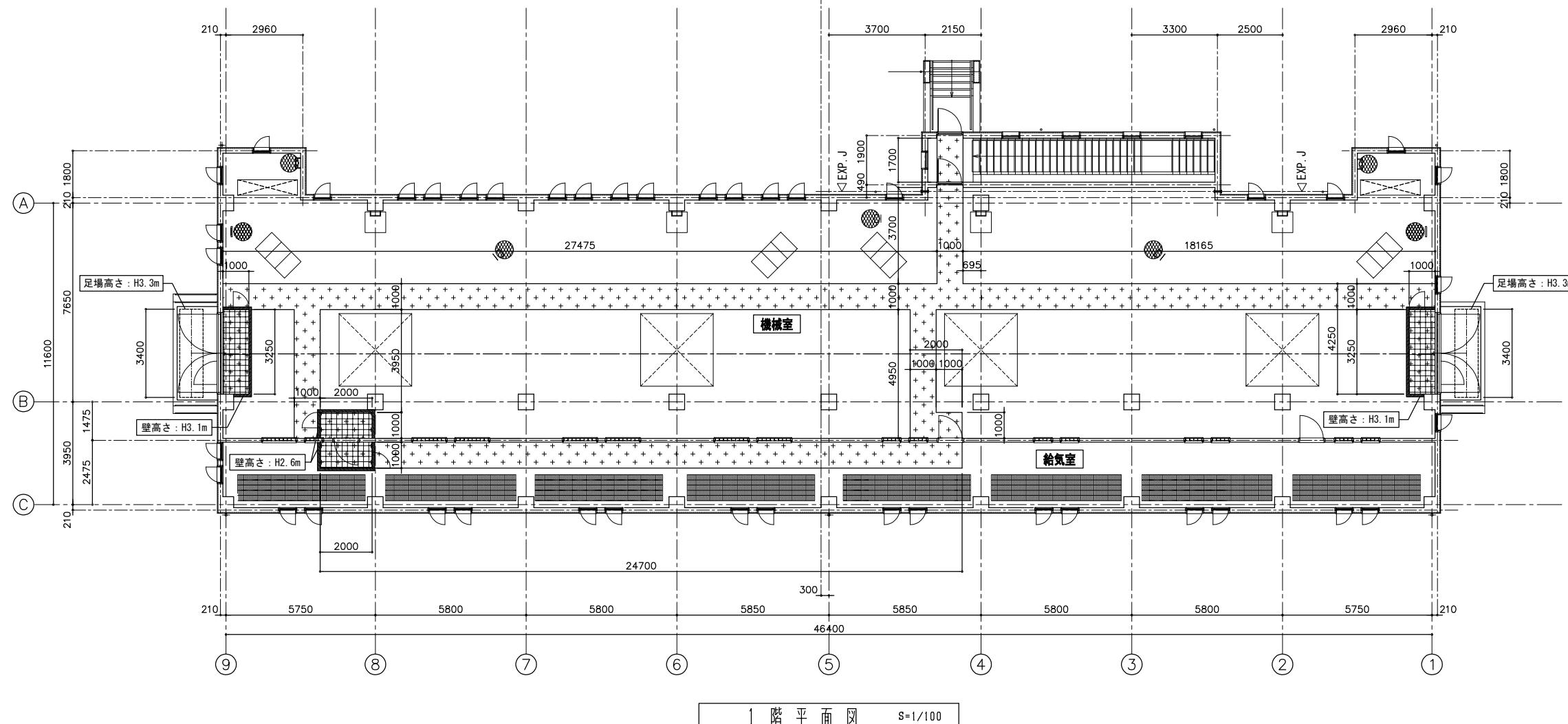
※印はメーカー工事とする。

令和7年度 入善町公共下水道事業					
工事名	入善浄化センター建築改修工事				
工事箇所	入善町東五十里地内				
図称	改修詳細図(2)	縮尺	1/10	設計年月日	令和 年 月 日 番号 A-21
課長	係長	合議	審査	設計者	
入善町役場					

改修前



平成14年度工事（OD第1系-2） 平成11年度工事（OD第1系-1）

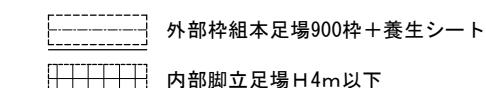
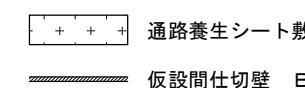


＜注記＞

- ・仮設間仕切り、足場等は現場監督員と調整のこと。
 - ・仮設間仕切りは気密性を確保するため、継目、床、天井部にテープを貼ること。
 - ・仮設間仕切り内施工スペースは床養生シート敷きとすること。
 - ・特記なき限り仮設間仕切り内の設備機器・盤等は養生のこと。

※この「参考図面」は、入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料である、したがって、「参考図面」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は施工条件、地質条件等を十分の責任において定めるものとする。ただし、当初契約時の想定と現地条件、施工条件が異なる場合には、監督職員と協議の対象となる。

〈凡例〉



令和7年度 入善町公共下水道事業			
工事名	入善浄化センター建築改修工事		
工事箇所	入善町東五十里地内		
図 称	仮設計画平面図(参考図)	縮 尺	1/100
設計年月日	令和 年 月 日	番 号	A-22
課 長	係 長	合 議	審 查
			設計者
入 善 町 役 場			